

こどもエコクラブ サポーターアンケート実施結果報告

【実施概要】

1. 対象:2015年8月31日時点で登録のあるこどもエコクラブ
2. 実施期間:2015年9月11日～10月15日
※ウェブサイトのアンケートページは10月26日まで開設し、回答があったものは集計に含めた。
3. 実施方法:
 - ① メールアドレスを有するクラブ(1,229クラブ):ウェブサイトを設置したアンケートページへのリンクを記載したメールにより回答を依頼
 - ② メールアドレスを持たないクラブ(733クラブ):料金受取人払の返信用封筒を同封し、郵送にて回答を依頼
4. 回答数:
 - ① ウェブサイトからの回答:169件(回答率13.0%)
 - ② 郵送による回答:308件(回答率42.0%)

【結果】

単純集計のほか、必要に応じ以下の別によるクロス集計を行った。

●クラブ類型:「グループの種類」により、以下の4つに分類

- (1)地域:(2)～(4)以外のクラブ全て
- (2)学校:「学校の」クラス、学年、全校、委員会、クラブ
- (3)家族:「家族・親族」
- (4)幼・保:「幼稚園・保育園」

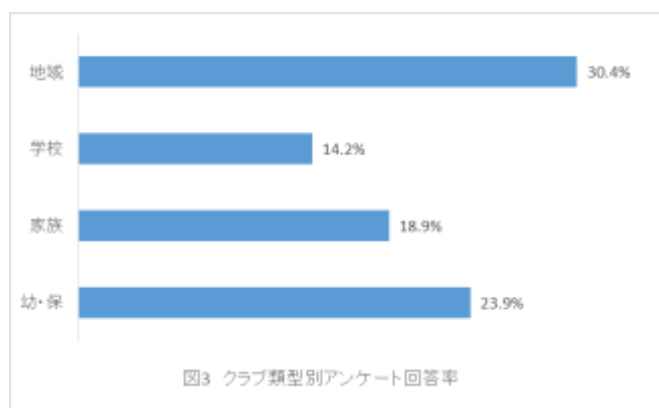
●活動年数:以下の5つに分類

- (1)1年
- (2)2年
- (3)3～5年
- (4)6～10年
- (5)11年以上

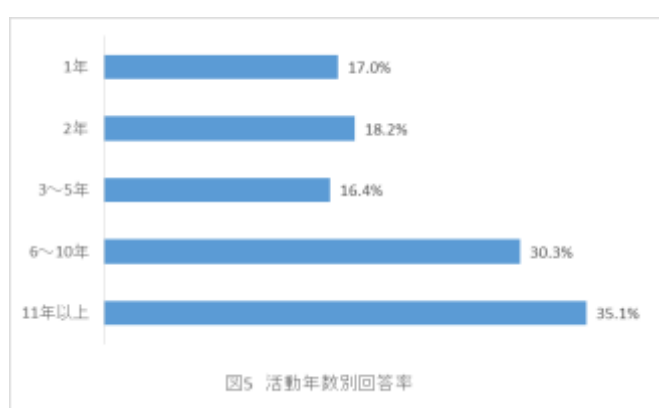
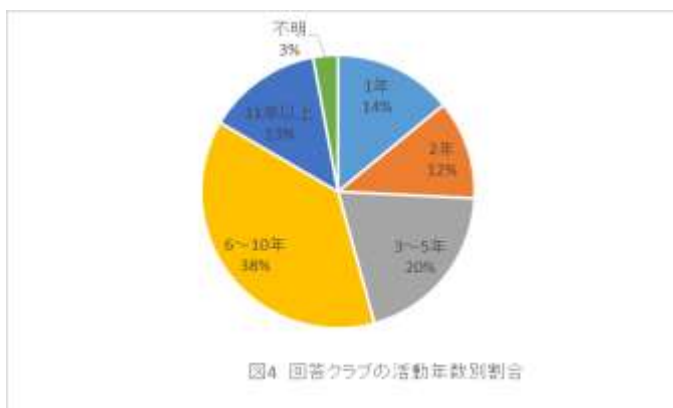
■回答クラブの概要

回答があったクラブは全部で477クラブ、うち13はクラブ名の記載等がなく、特定ができなかった。回答クラブの形態別割合を図1に、上記の類型別割合を図2に示す。また、類型別の回答率

は図 3 のようになった。地域クラブの回答率が高く、学校はやや低くなっている。



同様に、活動年数別に回答クラブの割合(図 4)、回答率(図 5)を示す。年数が長いほど、アンケートに協力的であったことがうかがえる。



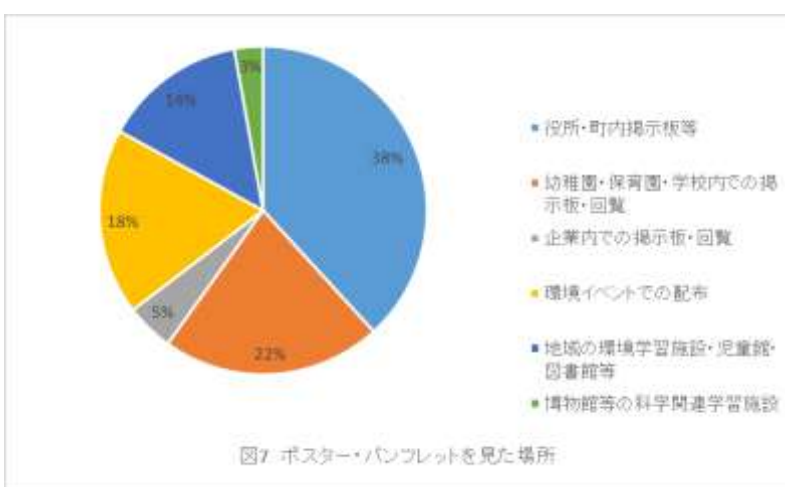
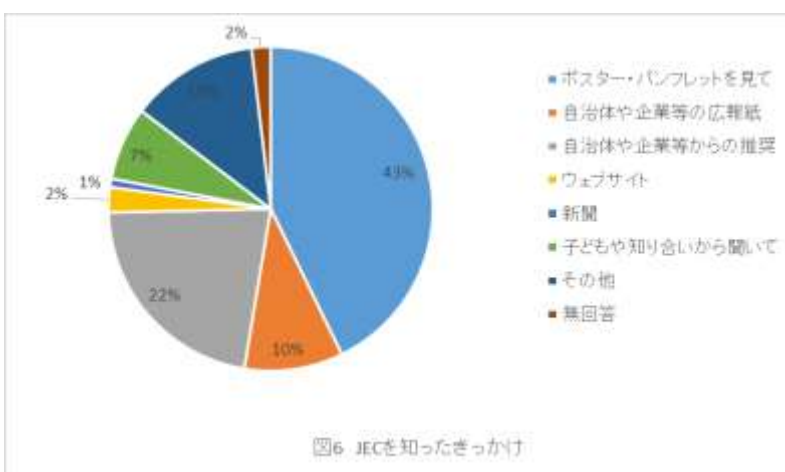
Q1.こどもエコクラブを知ったきっかけ

こどもエコクラブを知ったきっかけは図6のとおりである。ポスター・パンフレットは、役所や学校で目にされることが多いが、環境イベント等での配布も一定の割合がある。

ウェブサイトは極めて少数であり(外部サイトから移動してきたのは、環境省、アスエコ(岡山県環境保全事業団)のみ)、多くの人に事業を知ってもらう入口としては機能していない。

「その他」の回答としては、前任者から引き継いだ、異動先でも続けた(先生の場合)、所属先(子ども会、イオン等)の会議での情報提供、などが多かった。

類型別(図7)では、家族の「ポスター・パンフレットを見て」が突出して高い。役所での掲示と並んでイベント等で配布されたものを見た割合が高く、家族連れにはある程度効果があると考えられる。



[新聞]

朝日新聞、読売新聞、中日新聞、北海道新聞

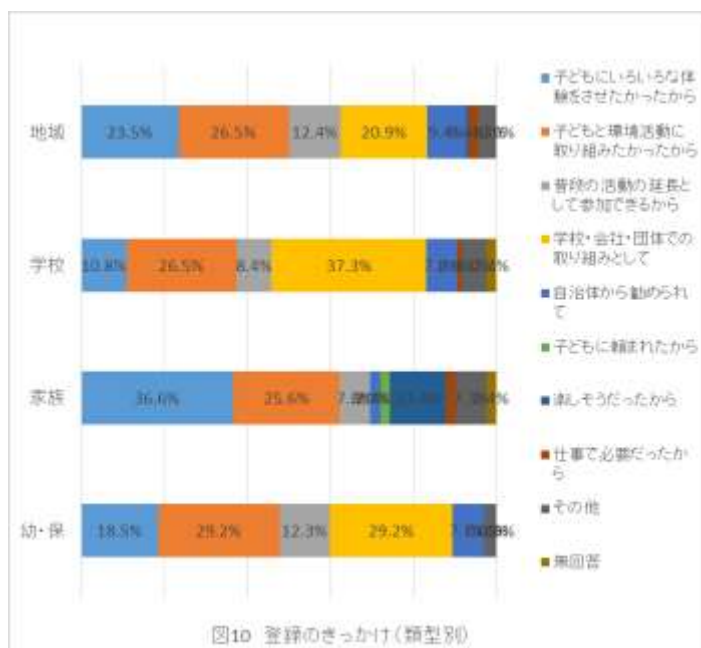


Q2.こどもエコクラブに登録したきっかけ

こどもエコクラブに登録したきっかけを図9に示す。家族のクラブでは、「子どもにいろいろな体験をさせたかったから」、「楽しそうだったから」が特に高く、非日常的な体験や家族で楽しく取り組めることに対する保護者の期待がうかがえる(図10)。

[その他の回答(抜粋)]

- ・ボランティア活動に興味があったから。
- ・平成7年頃は環境問題に対し身近に 이슈が存在し、みんなで取り組んでいこうという熱気があり、それがクラブ設立につながりました。
- ・自分たちの活動を広く知ってもらうために、所属するのが有効と考えたから。
- ・水辺教室に参加して、水質調査をした際にどうやったらこの川を守れるかと考えていたら、市役所でこちらのパンフレットを見つけた。
- ・活動の助成費がもらえた。
- ・市の環境チェッカーの活動の一環として。
- ・委託業務の充実のため。
- ・シニア自然大学校の先輩から相談を受けて。



Q3.こどもエコクラブのメリット(複数回答)

こどもエコクラブのメリットを複数回答で聞いたところ、やはり無料であることが突出して多かった(図11)。一方、活動への助言がもらえることはかなり低い。活動レポートを投稿・提出するクラブが少ない現状では、実感できるメリットにならないのだろう。



類型別(図12)では、家族のクラブでプログラムや地域のイベント情報が提供されることにメリットを感じる割合が高い。

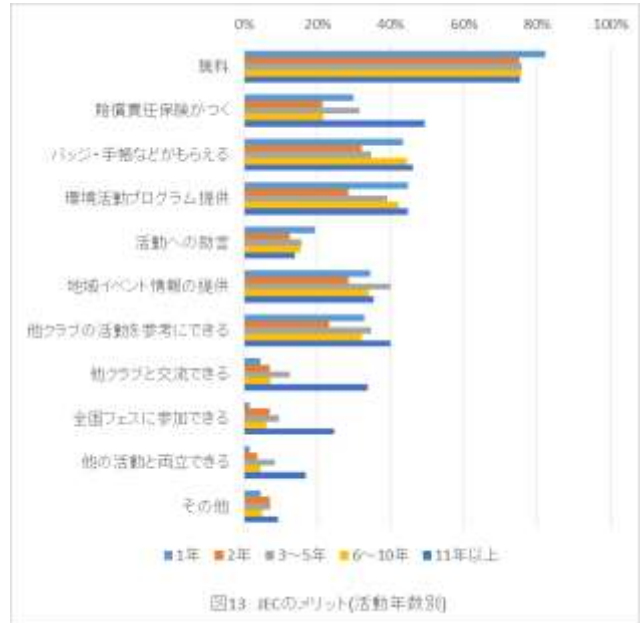
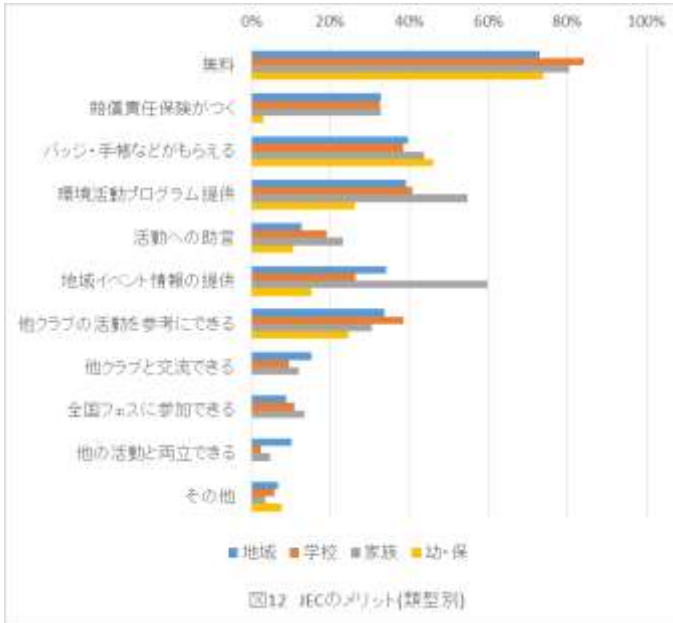
活動年数別(図13)では、長くなるほど全国フェスティバルをはじめとする他クラブとの交流の機会を重視していることが読み取れる。賠償責任保険については、活動を続けているからこそ、もしもの場合への備えがあることの安心感がより強く実感されるのかもしれない。

その他では、地域とのつながりや子どもの成長を強調する意見のほか、広報・情報発信、活動の信頼性が担保されるなど全国的な組織の一員であることを重くみる意見があった。

[その他の回答(抜粋)]

- ・こどもたちが、クラブメンバーであることを誇りに思い、環境に対してより強い関心を持って日々過ごしてくれています。
- ・地域の中で育ちゆく子供たちと共に、歴史・資源・環境などを学ぶよい機会になっている。未来のリーダー育成に関われる。
- ・個人では微力だし、成果も判らないが、実績を積み重ねられ、他の子達も色々と頑張っていて意欲も増す。活動を具体的に思い付けないが、皆の活動や行政や企業からの案内で、活動の種類を広げられ、楽しめています。
- ・育てるよろこびが実感できる。
- ・子ども達が前向きに取り組める。
- ・活動の履歴管理。
- ・情報を発信することができる。
- ・広報の効果がある。
- ・県からの補助金対象になる。

- ・自治体と協力して実施できる。
- ・学校に協力してもらえる。
- ・地域に根差した学校の活動が、エコクラブの内容とリンクする。
- ・名称から活動内容が想像しやすいので、自分たちの活動内容を説明しやすい。
- ・全国組織があることで第三者が加入団体を良く見てくれる。
- ・登録団体として(保護者・学校)安心してもらえる。



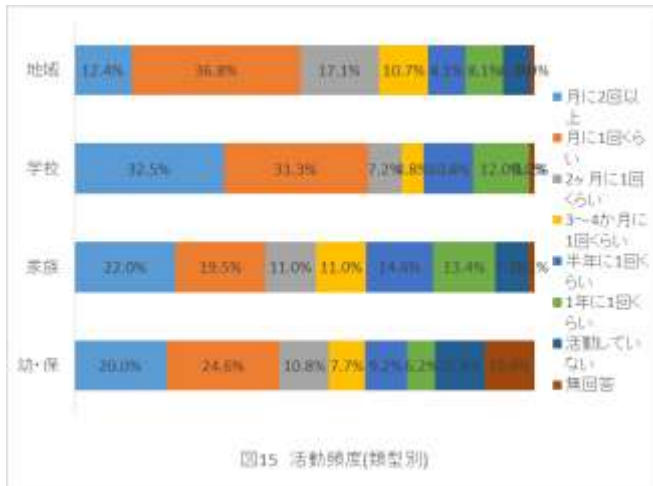
Q4.子どもエコクラブで実施する活動

(1) 活動の頻度

クラブの活動の頻度を図 14 に示す。半数近くのクラブは月 1 回以上活動していると回答した。

類型別は図 15、活動年数別は図 16 のようになった。集団行動がとりやすい学校と幼・保、最小単位で動ける家族のクラブに、月 2 回以上活動しているところが多い。子どもたちの日程を合わせるのが難しい地域のクラブでは月 2 回以上の活動を行うのは大変なようだが、4 分の 3 は定期的に活動している。活動年数別については、長くなるほどコンスタントに活動する割合が高くなる。活動スタイル、年間の活動サイクルが確立しているものと推測される。

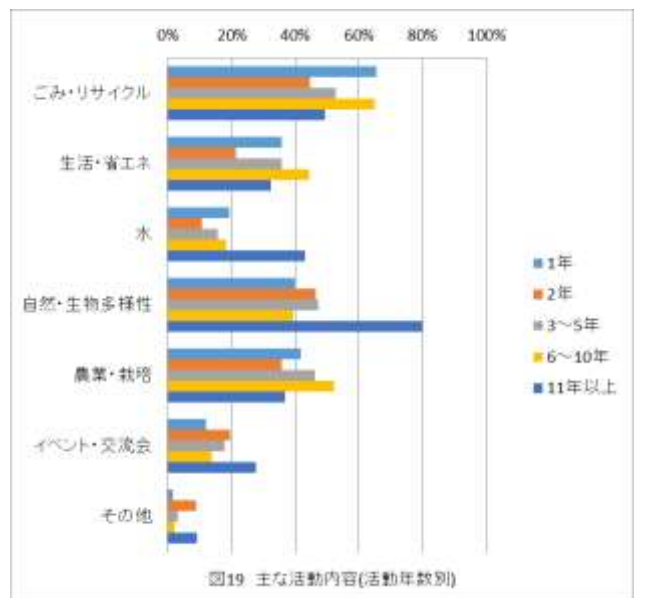
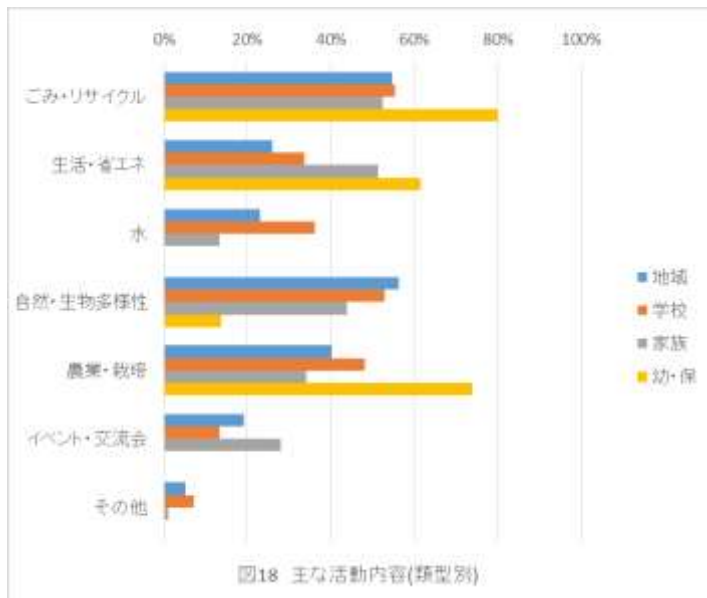
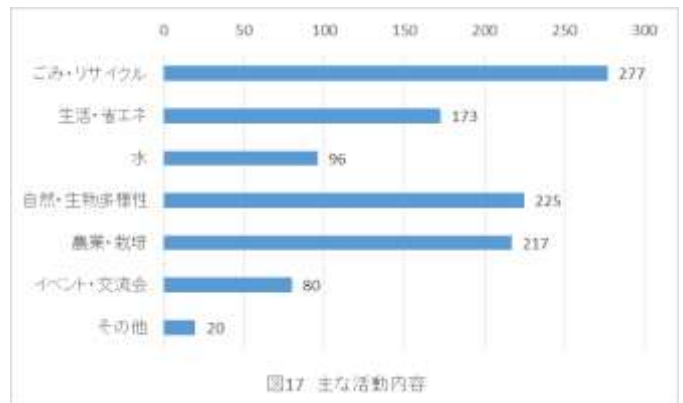




(2) 主な活動内容

主な活動内容(上位3つ)をきいたところ、図17のようになった。やはりごみ拾い等の活動は敷居が低く取り組みやすいようである。

類型別にみると(図18)、幼・保では園で実践しやすい活動が上位にきている。活動年数別(図19)では、年数が長いクラブで自然・生物多様性の活動割合が突出して高い。



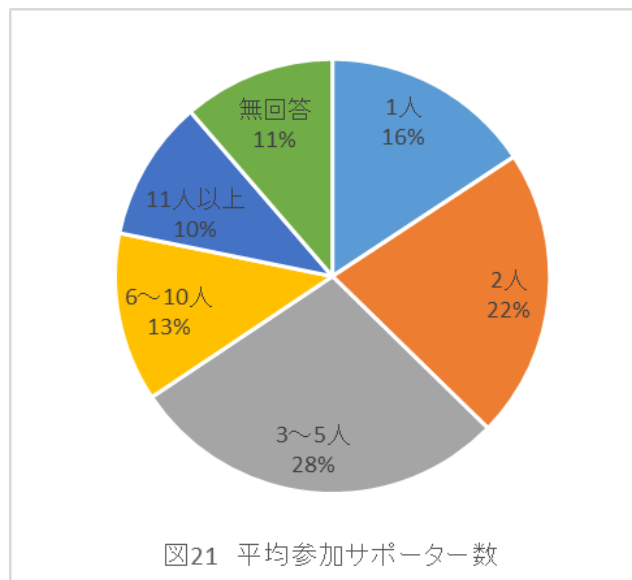
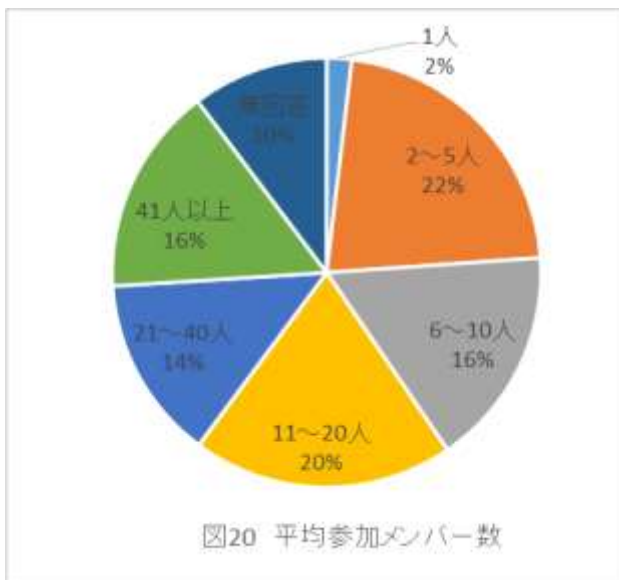
[その他の回答(抜粋)]

・竹を使っていろいろな計画を実践。例)竹炭の出来るまで。竹の器でクッキング、竹材で流しめん、器・竹馬・門松・凧作り・社会見学・川の生き物調査、等々(愛知県半田市)

- ・湖魚食・伝統食づくり(滋賀県草津市)
- ・地区文化祭での発表、野外演奏会など(島根県出雲市)
- ・間伐材の有効利用を広め間伐を推進(三重県いなべ市)
- ・ブリヂストン子どもエコ絵画コンクールへの参加(栃木県那須塩原市)
- ・みどりの募金(岩手県岩泉町)
- ・おんせん県ボランティア登録し、観光地清掃や列車のお見送り、手振り(大分県別府市)
- ・まちづくり(福岡市)
- ・科学実験(広島市)
- ・会社からのテーマに基づき活動(イオン)
- ・研究会などで論文発表、地域の方への啓もう活動(広島県福山市)

(3) 1回の活動における平均参加人数

1回の活動における平均参加メンバー数を図20、サポーター数を図21に示す。家族のクラブでも、メンバー1名で活動することは少ないようである。



Q5.活動における課題

活動するうえでの課題についてきたところ図 22 のようになった。サポーター、メンバーともに忙しく、活動の時間が取れないことが最大の課題となっている。一方、やっている活動に自信が持てない、どのように活動を発展させていけばよいかわからない、といった悩みも多く挙げられており、全国事務局で支援できる余地はありそうである。

類型別(図 23)では、幼・保で「今やっている活動でいいのか確信がない」の割合が高い。幼稚園の先生や保育士は、環境に関する知識がないと適切な指導ができないという意識が強いのではないだろうか。

活動年数別(図 24)では、やはり 1 年目のクラブに活動に対する自信のなさが多くみられる。長く活動するクラブは、メンバーを集めるのに苦労しているようである。

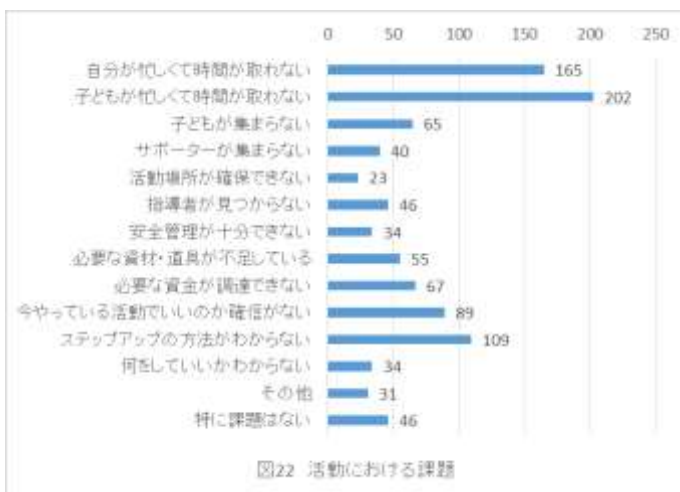


図22 活動における課題

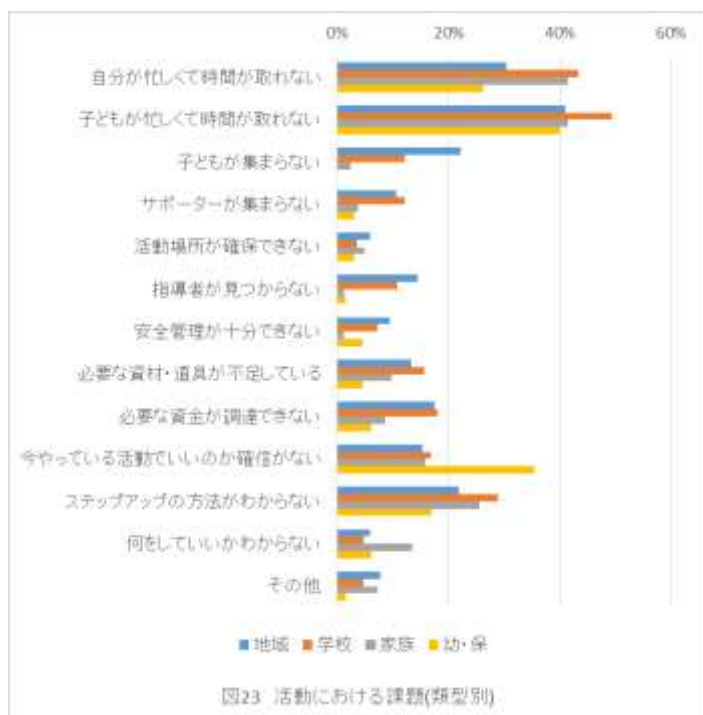


図23 活動における課題(類型別)

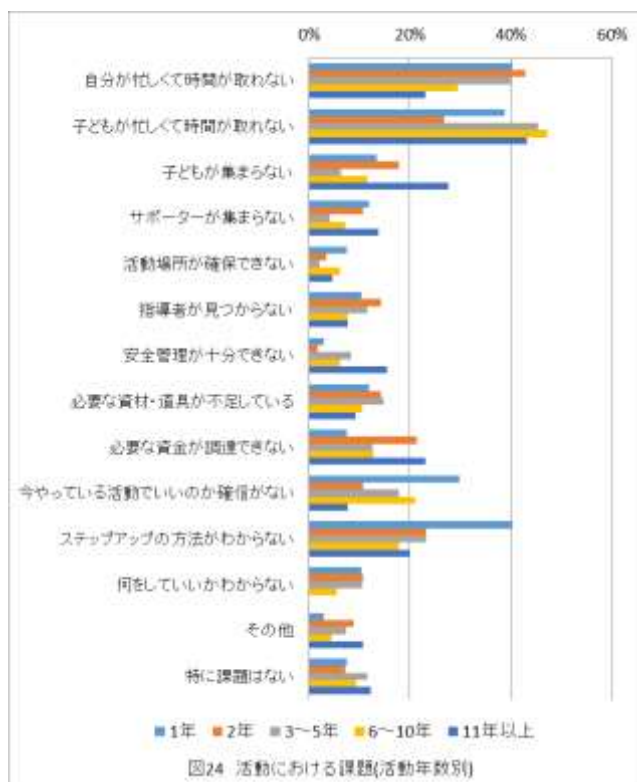


図24 活動における課題(活動年数別)

[その他の回答(抜粋)]

- ・サポーターの高齢化
- ・後継者がいない。
- ・企画を推進できるサポーター、メンバーの養成
- ・活動を、友人→町内へ広げたいですが、声掛けできていません。「環境」という真面目な活動なので、楽しいより地球のためだし、大切な事とは皆も解っているでしょうが、参加したがる自信

がなくて、誘えてない。

- ・サポーターの中での事務分担がうまくいかない。道具の置き場所に困っている。
- ・緑の少年団の活動日と重複するためエコ活動が少なくなっている。
- ・普段の生活の延長で活動をして、環境に関するイベントにも参加しているが、記録しまとめることが苦手のようなので、記録したりできず、いつも中途半端になってしまう。
- ・男の子が少ない。
- ・高校生の活動なので「こどもエコクラブ」の名称に抵抗がある。
- ・家族の場合、子どもが成長するとこどもエコクラブの活動が終了してしまう
- ・学年の幅があり、低学年には難しく、高学年には簡単すぎてしまうこと
- ・ミーティング場所を探すのが大変
- ・アウトドア活動の中で環境への関心をどう推進したらいいのかわからない。
- ・活動報告をどのようにまとめ、報告していけばいいか悩みます。
- ・経験あるサポーターの活用機会がない。
- ・傷害保険の加入等、特別採捕許可について
- ・イオンチアーズクラブの活動中心となり、エコクラブとの両立が難しい。
- ・地域の方々とどのように連携していけばよいかかわからない、不安である。
- ・予算の合理的な使用(自治体のクラブ)

Q6.課題を克服するために望むこと、実践していること

Q5 で挙げられた課題ごとに、それらを克服するために実践していることや、事務局に要望することをまとめた(抜粋)。

[時間がとれない]

- ・早めに計画を立て、調整しています。
- ・年間行事の中に入れて担当を決めている。
- ・無理のない計画を立てる。
- ・細く長く続けていきたいので、主催側も参加者にも無理をしない、させない事。
- ・学校の教育課程、教育活動の中に組み込んでいく。
- ・時間や曜日に関係ないゴミひろいなどを実践。
- ・たてわり班活動(全校)の中に取り入れている。
- ・小学校と地区でいっしょに活動している。
- ・活動の日にちを1日だけに限定しないで、何日か(2日~1週間)活動できるようにしている。
- ・小学校が午前授業の日にエコクラブ活動をするように計画をたてている。
- ・子ども達の学校の年間スケジュールを先に確認して、エコクラブ活動をその間に入れている。
- ・事前準備なく参加できる、近所のイベント情報を教えていただきたい。
- ・行事などもっと早めに知らせてほしい。詳細はわからなくても大まかな年間行事を知らせてほしい。

- ・地域のイベント情報を1か月前～2か月前に教えていただけると、日程調整や出欠の確認をする時間があるので利用できるが、間際だと利用できない。早めの情報と、近隣の地域でないと行けないので、近場の行事を教えていただきたいです。
- ・屋外活動は、自然条件で予定どおりできないので、他の計画との入れ替えが、スムーズにいくように調整するのが大変である。予備日を計画して実行している。
- ・現在もフルタイムで仕事をしており、時間を確保できないことが多いのですが、子供たちが私のスケジュールに合わせている状況です。昨年より、学校の長期休みに合わせ、私も夏休みをとることで、他市への宿泊体験を実現しました。ゆっくりと関われるので好評です。子供たちの意外な面を発見できたりして、とても素敵な時間を共有できています。
- ・家族単位で活動している場合、子どもが中学生以上になると活動が停滞または休眠状態になり、やがて廃止となる。経験あるサポーターを全国や地域事務局で登録し、経験少ないサポーターの助言者として紹介してあげると新規登録や継続が増えると思う。

[人が集まらない]

- ・参加人数が多く確保できる日を保護者の方々に確認して活動日を決めている。
- ・主な活動を土曜日にして年間行事表を4月に配布している。
- ・地域で活動している仲間が集まることができる日やイベントがあるとよい。
- ・小学校に案内チラシを配布している。
- ・新しくメンバーに入ってくれそうな子ども(親)に声掛け。
- ・会員だけでなく小学校にチラシを配布しイベントのお知らせをしています。子供がのびのび過ごせる場所探しに苦勞しています。また資金の調達に困っています。
- ・小さい子供もつれていきやすい。
- ・時間の取りやすい土曜に行い、声をかけて行くようにしている。
- ・継続とPRなどを新聞・放送関係に取材に来てもらう。
- ・なるべく子ども達の行事を調べるが、様々な学校に行っているの、来られる子で参加者をつくる。
- ・メンバーが少なくなってきたいて活動がうまくできなくなってきました。児童館と同じなので、利用している子ども達を参加させたりしています。
- ・全員集まれないときは少人数で実践している。ほかの大所帯のエコクラブに臨時客員で参加して違う目線で勉強できるといいな。
- ・子供たちはその他にも課外活動、地域貢献活動をしていて意外に忙しいものです。ダイレクトに上の課題を解決することにはなりません、例えばエコクラブの活動に公的な支援がついて学業などのプラスポイントに加点されたり、積極的に取り組むことへのメリットがあると良いです。
- ・参加者が一人であっても続けているというのが現状です。集合している時間がほんの短時間であっても、個々人で取り組める物を紹介したりされたり出来ればいいなと思います。学年が上がるにつれて、活動時間を合わせるのは、とても困難です。
- ・保護者には サポーター登録をお願いして 入会時に みんなで活動を作り上げる「〇〇エコクラ

ブ」と説明しています。でもお仕事優先で、年間に一度は当番として参加いただいています。

- ・子ども達の親に協力をお願いしている。
- ・イベントがある時、他の学童より指導員に来てもらったり、保護者参加募集をかける。
- ・〈望むこと〉マスコミ等による環境に対する活動が以前より報道されなくなってきていて世間の人たちの環境学習に対する意識も低くなってきているため環境保全活動に対する意識も低くなって人が集まらなくなってきている。なんとか活動を盛り上げる先導役をしてほしい。
- ・「〇〇エコクラブ(対象が小学 4-6 年生)」を卒業した中学生をできるだけ活動に引き留めるように、ジュニアスタッフと位置づけて継続的に活動できるような仕組みにはしている。

[活動場所]

- ・今利用しているミーティング場所は無料ですが、暗く狭く騒がしく、落ち着いて話し合いができず、大きな用紙を広げるのも困難なので無料で公民館などの会議室を貸してほしい。(地域事務局に望みます)
- ・地元の自治体(市役所)に自主的に手続きをして、年数回の場所の提供や少額の補助金をいただいています。資金や場所、指導者がさらにあれば、活動もさらに広がると思います。

[指導者]

- ・自治体の環境活動アドバイザー派遣を利用している。
- ・自治体の環境課や科学館の学芸員さんなどに相談をしています。
- ・内容がやさしい出張講座などを実施してほしい。
- ・地域事務局であるはずの〇〇市の支援が欲しいが、〇〇市からは「こどもエコクラブについてはもう関知しない」という返事がありました。
- ・〇〇県で県民対象のエコマイスター養成が定着して来ており、次世代の子ども達にしっかりと伝えて安全・安心な地球環境を守っていく大切さを学ぶ場として学校の社会教育の一環としてとらえていく。

[安全管理]

- ・サポーター・コーディネーターは、安全管理の為に必要ですが、店内活動は大人1人の時があり心配です。そのかわり野外活動では子ども5人に対し大人1人は確保しています。(骨折とかの事故をおこした事はありませんが、エコクラブに請求した事ないですね。)
- ・活動中の本人の怪我や事故についての保険…学校のエコクラブ活動は学校安全？保険が適用されるのに、一般のエコクラブは適用外。そのために行事保険などをかけている。自治体事務局で検討してほしい。
- ・傷害保険の斡旋。できれば登録時に加入できると手続きが楽です。単にタモ網で子どもたちと河川で生き物調査を行うときには、特別採捕許可を取る必要がないようにしてほしい。川遊びはダメなのか？指標生物調べも本来は特別採捕が必要らしいが、必要ないようにしてほしい。指標生物調べですよ。

[資材・道具、資金]

- ・無理をしない、自分たちにできる範囲で活動する。
- ・環境プログラムで使用するような実験キットなどが手軽な価格で購入できるようなシステムがあると助かります。
- ・種や資材の提供。
- ・効率的に取り組めるプログラムの提供や、植樹苗木などの提供。
- ・県や市の備品の借用。
- ・子ども会育成会事業との連携。
- ・エコクッキングの実施、水質調査のキットがあればと思う。
- ・水質調査や空気の調査を昨年までしていたが、COD を図るパックを使用期限が迫っているものなどで提供して頂ける所があれば紹介して頂きたい。図鑑なども充実させたい。
- ・有料のバスツアーを祝日や土日で、環境センターなど、〇〇駅から親子ツアーを実施してほしい（免許がないので）。
- ・活動費の援助をお願いしたい。活動費を得るために各種補助金の申請を行っている。
- ・こどもエコクラブの協賛会社などから、サポートを受けられるようなシステムがあると助かります。
- ・地域のロータリークラブから継続資金援助がうけられた。
- ・資金の調達方法を具体的に教えて欲しい（助成金等）。
- ・活動助成や交流会などの場作りで、地元企業・行政から支援を頂いており欲張らなければ一定の活動を進めることが出来ています。登録クラブ数はそれなりにあるのですが、その割に交流会に参加される団体が少ないのが残念です。（地域事務局さんががんばってくださっているだけに残念です）
- ・メンバーのスキルアップで、活動が更に活発になり、市より傷害保険料や調査道具等の補助を受けていますが、それでも活動資材や資金がまだ足りてないのが実情です。サポーターの支援と、メンバーの自己負担で活動を続けています。
- ・自治体の支援をあえて求めない。

[活動内容、ステップアップ]

- ・指導者、ボランティアの派遣。
- ・小学校と地区でいっしょに活動している。
- ・県内のエコクラブ交流の場があるので成長できる。
- ・ホームページで調べる、昨年の他のチームの報告を参考にする。
- ・活動例、参考にできる資料の充実・提供。
- ・年1回他園ととりくみの発表や情報交換の勉強会を開いている。
- ・イベントの企画を増やしてほしいと共に参加人数やその企画に対し、回数を増やして欲しいです。
- ・日常の保育の中に活動（体験させたいこと）として取り入れている。リサイクル工作、ゴミ減量、節電、食育＝クッキング、グリーンカーテンとあたり前のことを毎年続けている。

- ・活動の企画などを提案して欲しい。地元での活動サポートや、必要な指導者などの紹介、仲介など。
- ・①子供達、保護者や支援者に対し活動記録を作成し、情報の共有を図る。②サポーターのミーティングを開催し、問題や課題解決を図る。③HP でほかのクラブの活動を参考にする。
- ・家族単位でやっているため、たまには県単位で交流会、専門家と一緒に何かすることを希望します。
- ・学社連携という視点で、市民団体(クラブ)の場合に学校との関わりを持つことで、活動内容を相乗的に活用したり生かしたりすることができるので、その辺りの情報をいただければありがたい。
- ・全国フェスティバルは魅力的ですが、遠いので、市レベルで交流会があれば、他の団体を参考にしたりできるし、活動を広げたりできると思います。できれば、全国フェスティバルを地方で順番にやってはどうか？
- ・地域のエコクラブの交流会ができる経験が交流できるのかと思います。〇〇県では若干の交流はありますが、より身近な地域での交流をお願いしたいです。
- ・自治体さんでコーディネーターさんがいたら相談できるのになあ〜と思いつつ、いろいろ検索しています！！また、学校を通じて「お手紙」をもらえると、チェックしやすいです！！
- ・HP上で、メンバーやサポーター同士が、情報交換できる仕組みづくり。
- ・サポーター向けのスキルアップ研修・勉強会。
- ・環境の学習に対するアドバイスや本クラブが開催しているイベントへの参加を希望します。
- ・引越してきたばかりなので、そもそもの知り合いが全くいない。今後、地域のエコクラブ交流会などで、年齢が近く、やりたいことが似ているクラブがあれば、交流してみたい。
- ・太陽の下で、額に汗し、異年齢交流しながら活動することの中で真の生きる力が育つことを教育界に国民的運動として訴えていけたらとおもう。
- ・それぞれのクラブが完結してしまうのではなく、クラブ同士でつながりあえるようにしたい。
- ・活動しても達成感のないことはやりたくありません。(忙しいところ時間を割いて集まって頂くので)でも子供が楽しかったと感じる活動であれば予算次第で活動したいですが何をして良いのか分かりませんのでそこを指導して頂きたいのと、活動内容もたくさんある中で選択できればよいと思います。
- ・職員により環境教育への関心に温度差があるのは当たり前だが、一人の人間としての役割、責任を考えて生活する視点でかかわることを望む。また、管理職などの指導者の理解を得られないと登録や活動に制限が加わることが課題であるので、行政を中心に宣伝や価値付けを大いにしてほしい。5年社会科の教科書にこどもエコクラブが紹介されているのは素晴らしいと思う。ぜひ、理科でも紹介されることを望む。
- ・活動の目的は、水質保全やごみ減量(特に生ごみ)を実践する人を地域に中に一人でも増やすことなので、講座を開催したり、伝える行動をしています。生活化、社会化することが大事と思っているのであらゆる場面で汗かいています。事務局には具体的にどういう支援をしてもらったらいいか解りません。できることをやっています。
- ・バケツでの稲作りということで、場所もせまく 1 回にする事は、人数もかぎられるため、掲示板に

準備から完成までの流れを書き出し、子ども達にも口頭で説明をして、気がついた子が声を掛けあってやるという事で、1人1回は行い、できるだけ多くの子が参加するようにしています。もうすぐ稲刈りになりますが、最後お米が出来たら買ったお米にプラスして皆で「長いまき寿司」を作り、食べたいなと思っています。

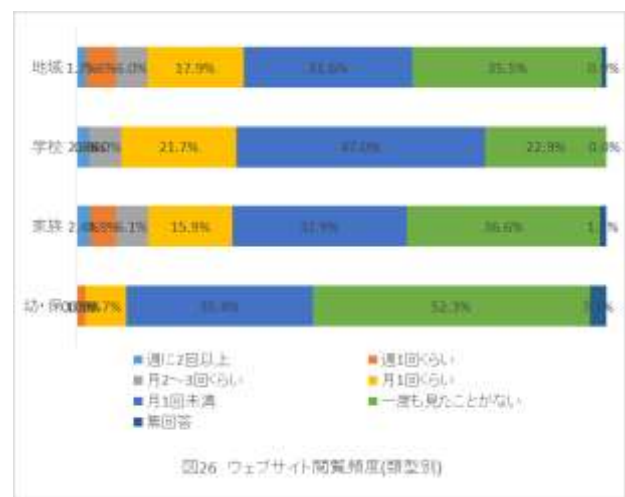
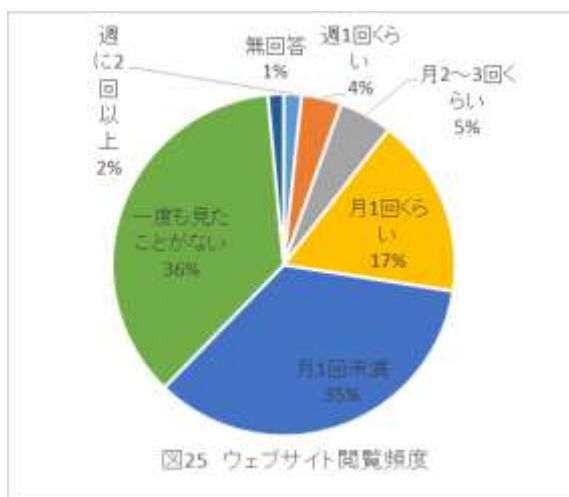
・河川敷のごみひろいなどをしながら、水辺の生き物を観察していたのが、〇〇川の護岸工事により、両岸がセメントで埋め立てられ、こどもがカニとりや手長えびをつかまえたりしていたのが、それができなくなった。多様な生物や四季の草花を観察しながらごみひろいをして環境を整え子供たちと自然にふれあえる環境を自治体が奪ってゆくのは寂しい事だと思う。昔はよくみかけたメダカなど、実際今の子供たちはほとんど見る事が無いと思われます。教科書だけで、めだかのひれを見てオスとメスをみわけましょうなどと教えたところで、実際生活の中で見る機会がうばわれてしまって、何の為の学習かいまいちど大人が考える必要があるのでは？川の両側をセメントで固めてしまえば、確かに雑草は生えなくなるので、生活効率はいいですが、身近にある小さな残された自然を守って行こうと思えないのは自治体として寂しいです。

・村内3小学校4~5年生全員、中学校希望者に案内パンフを配布しているが、他の活動が優先され、地元では特に〇〇湖等での活動は「危険」認識が強く教育委員会からも活動に対しての全責任はNPO法人が持つという「誓約書」を書かされ、学校と個別交渉を行ってパンフ配布を認められている現状です。青少年育成の一環として、行政・学校授業としては出来ない企画内容をNPOが推進しておりますが、本来は教育委員会が率先して行うべきと考えますが理解されないことが問題です。地方の行政や教育委員会などへの文科省・環境省などからの働きかけが必要と痛切しております。目先の利益を追う大規模に自然破壊をしたメガソーラー基地建設など行政が率先して開発している姿を見て、こどもエコクラブ活動の必要性を感じますが、中央からの地方行政への指導が望まれます。

Q7.ウェブサイト

(1) 閲覧頻度

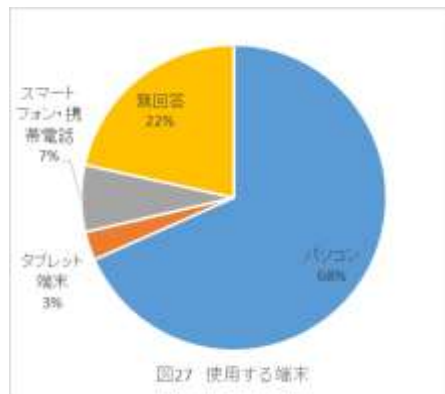
こどもエコクラブのウェブサイト閲覧頻度は図25のようになった。アンケートに協力してくださったクラブは、比較的熱心に活動していると推察されるが、それでも3分の1を超えるクラブが一度も



ウェブサイトを訪れたことがない。特に幼稚園・保育園では半数以上のクラブがウェブサイトを見たことがないと回答しており(図 26)、ウェブサイトとは別のアプローチが必要だと思われる。

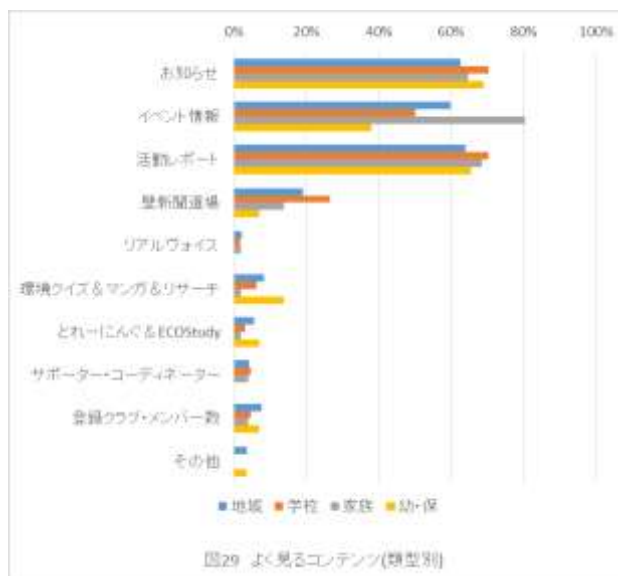
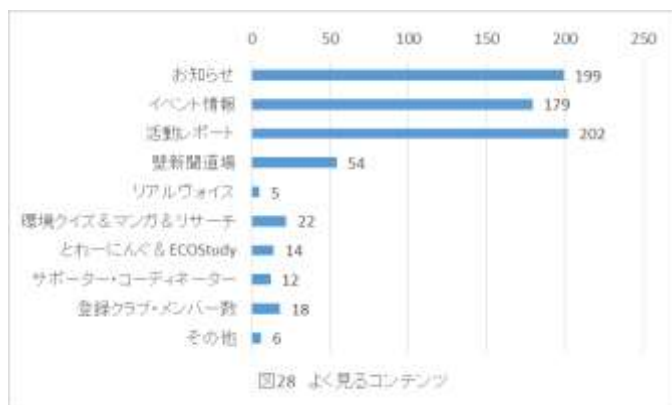
(2) 主に使用する端末

一度でもウェブサイトを見たことがあるサポーターに、主に使用する端末についてきいたところ、図 27 のようになった。大半のサポーターはパソコンを使っているが、今後はスマートフォンやタブレット端末による利用が増えることが予想される。これらのユーザーに対応したサイトの見せ方、活用の仕方を考えておく必要がある。



(3) よく見るコンテンツ

(2)と同じ対象者がよく見ると回答したコンテンツを図 28 に示す(上位 3 つ)。活動レポート、イベント情報、お知らせに集中しているが、最も頻繁に更新されている部分であり、当然の結果といえる。家族のクラブでは特にイベント情報の割合が高く、地域で開催されるイベントに参加したい、というニーズが大きいことが推察される(図 29)。



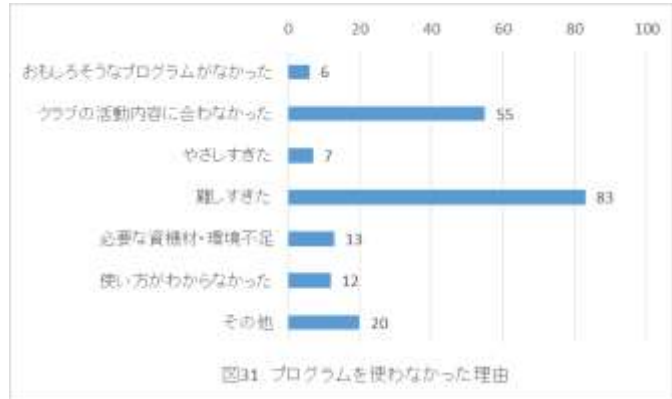
(4) ウェブ提供プログラム

(2)と同じ対象者に、ウェブサイト上で提供している環境活動プログラム(エコロジカルとれーにんぐ、Ecostudy)についてきいたところ、「使ったことがある」と答えたクラブは5%にとどまった(図 30)。こどもエコクラブのメリットとして、プログラムの提供を挙げたクラブは多かったが、この結果をみると何をもちいてプログラムと回答したのかが疑問である。



(プログラムを使わなかった理由)

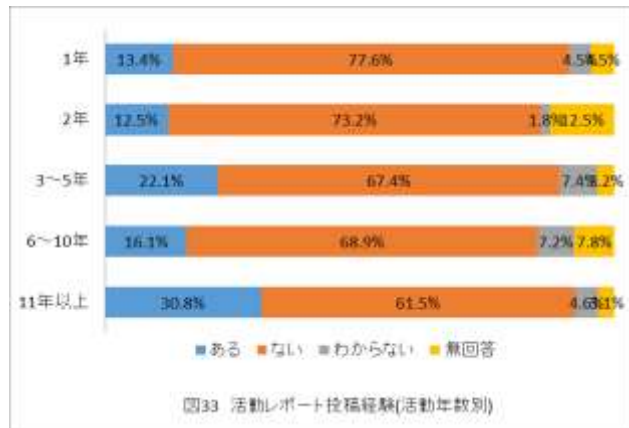
「内容を見たことはあるが使ったことはない」と回答したクラブにその理由をきいたところ、図 31 のようになり、メンバーの年齢層に比して難しすぎるという意見が多かった。また、提供されているプログラムは大人数向けであり一人で実施するには適さない、との声もあった。



Q8.活動レポート

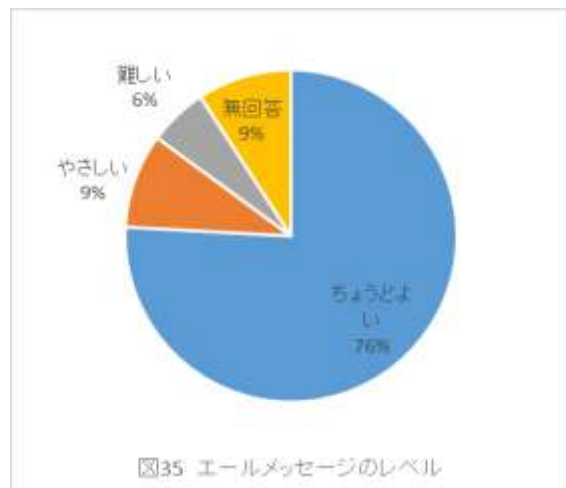
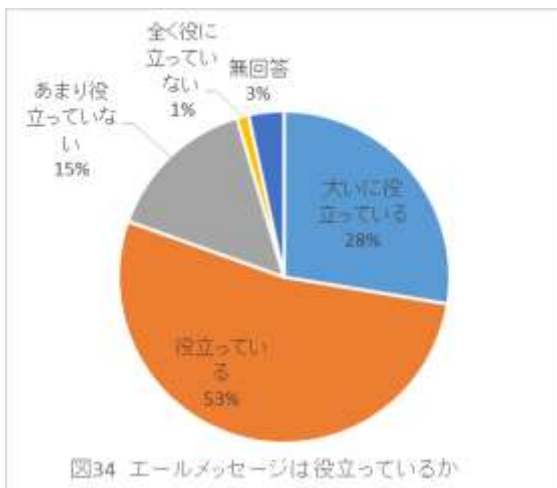
(1) 投稿経験

ウェブサイトの活動レポートへの投稿経験は図 32 のとおりで、投稿したことがあるクラブは 5 分の 1 弱であった。活動年数が長いクラブでは少し割合が高くなるが、それでも約 3 割にとどまる。



(2) エールメッセージは役立っているか

活動レポートを投稿し、エールメッセージを受け取ったクラブでは、8 割が役立っていると回答した(図 34)。



(3) エールメッセージのレベル

エールメッセージの内容についても、メンバーのレベルに合っているとの回答が多い(図 35)。

(4) 活動レポートを投稿しない理由

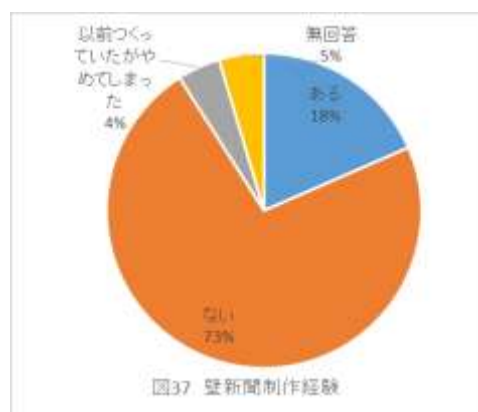
投稿したことがないクラブにその理由をきいたところ、レポートを書く時間がとれないという回答がほとんどであった(図 36)。その他として、パソコンが苦手、スマホ画面で投稿しようとしたが途中でわからなくなり挫折した、との意見があった。



Q9.壁新聞

(1) 制作経験

壁新聞をつくったことがあるクラブの割合は全体の2割弱にとどまった(図 37)。地域のクラブでは約4分の1が経験があるが、幼稚園・保育園では子どもたちだけでつくることはほぼ不可能であるため、割合は低い(図 38)。また、11年以上活動しているクラブでは、ほぼ半数が作った経験を有している。3年以上活動しているクラブの壁新聞制作回数を見ると(図 40)、複数回制作しているところも多く、これらのクラブでは、壁新聞づくりを活動の一つとして、年間計画の中に組み入れているものと考えられる。



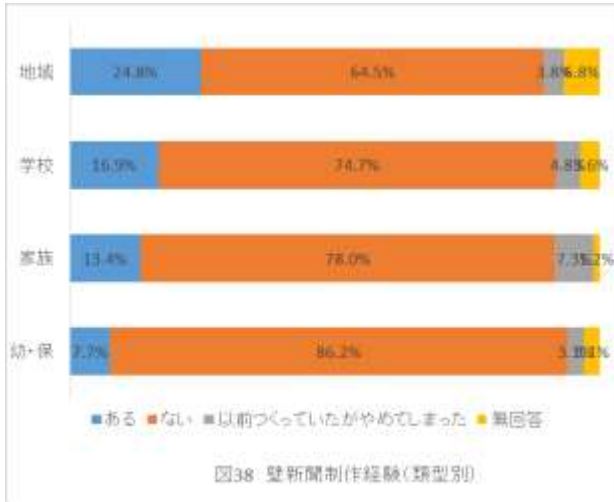


図38 壁新聞制作経験(類型別)

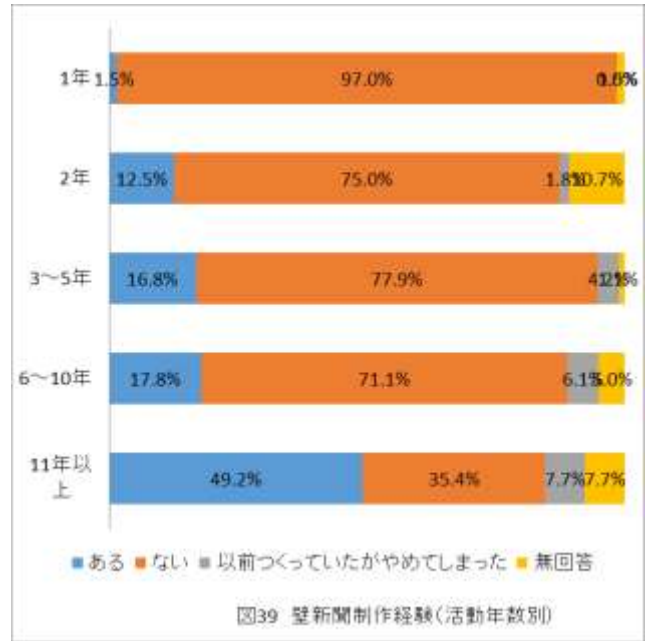


図39 壁新聞制作経験(活動年数別)

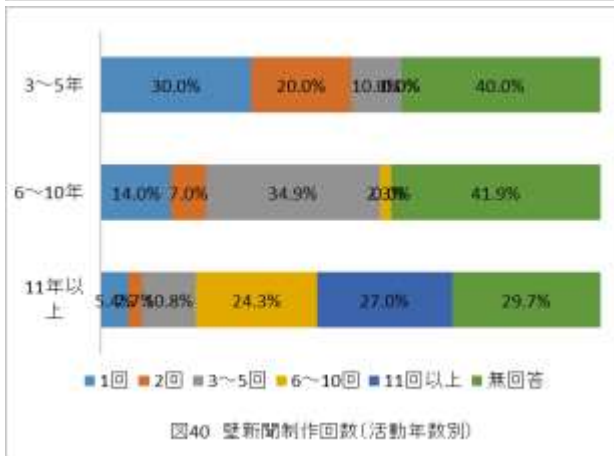


図40 壁新聞制作回数(活動年数別)

(2) やめてしまった理由

壁新聞づくりをやめてしまったクラブのその理由をきいたところ、図 41 のようになった。活動や活動レポートの投稿と同様、時間がとれないことが大きな理由となっている。

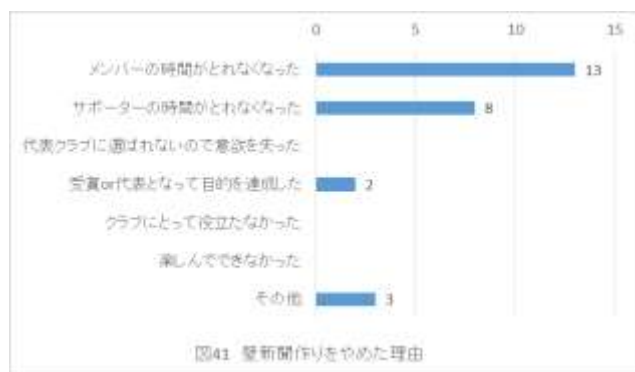
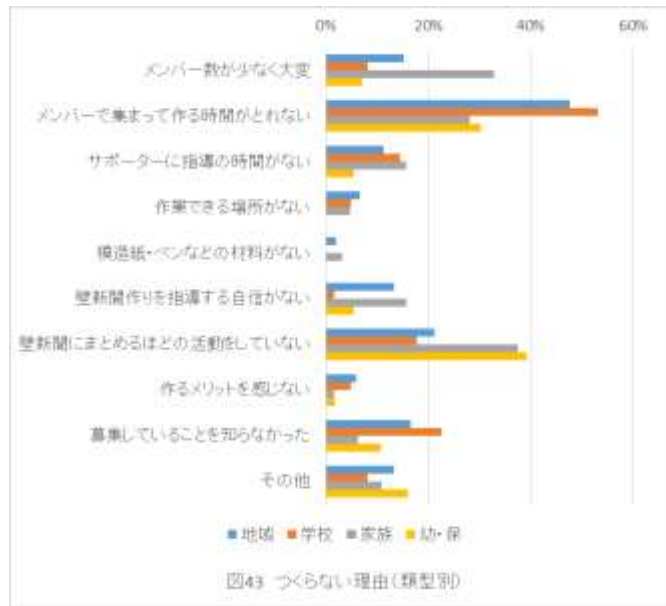
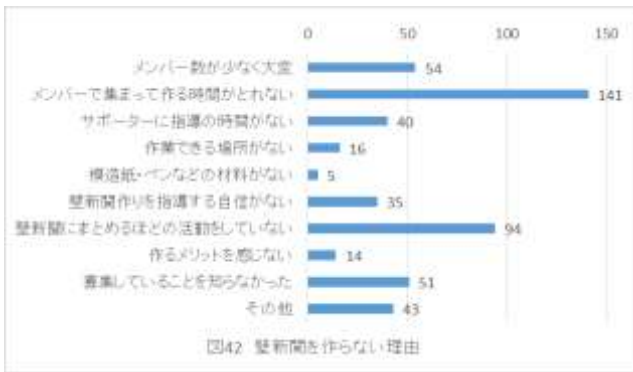


図41 壁新聞作りをやめた理由

(3) つくらない理由

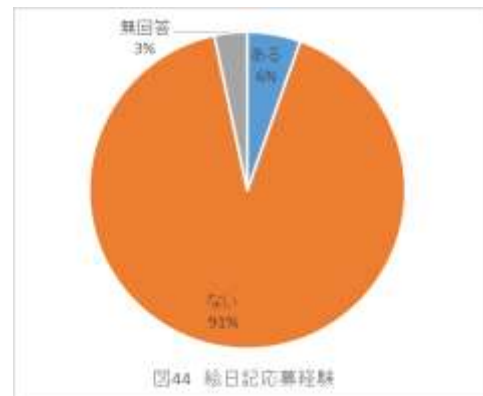
壁新聞をつくったことがないクラブにその理由を聞いたところ、図 42 のようになった。類型別にみると、時間が取れないという回答は地域や学校のクラブに、壁新聞をつくるほどの活動をしていないという回答は家族や幼・保のクラブに多い(図 43)。



Q10.絵日記

(1) 応募経験

絵日記の応募経験は図 44 のとおりである。壁新聞よりも歴史が浅いため、ほとんどのクラブが募集に応じていない。



(2) 応募しない理由

応募しない理由を見ると、時間がないという回答のほかに募集自体を知らなかったという回答が多かった(図 45)。特に学校のクラブでその割合が高くなっている(図 46)。壁新聞づくりがやや難しい低学年でも取り組める活動として、より積極的にアピールしていくことが求められる。



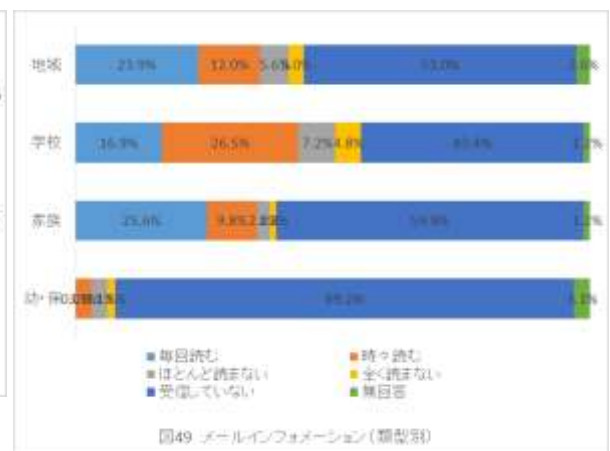
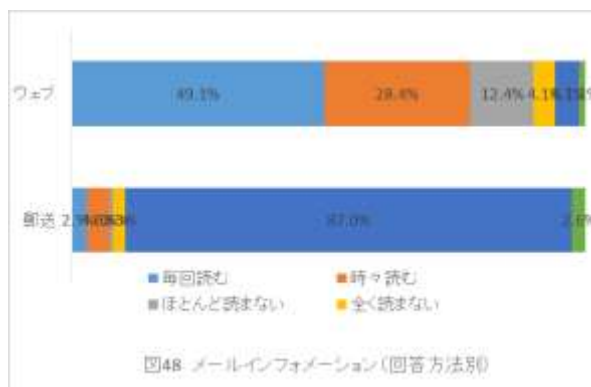
Q11.メールインフォメーション

(1) 読んでいるか

月 2 回配信しているメールインフォメーションを読んでいるか聞いたところ、図 47 のようになった。受信していないサポーターが半数を超えたが、郵送での回答者(=メールアドレスを登録していない)が多かったため、このような結果になった。ウェブ回答者では、4 分の 3 が目を通しているようである(図 48)。逆に、郵送で「読んだことがある」と回答した方は、どのように読んでいるのか疑問である。



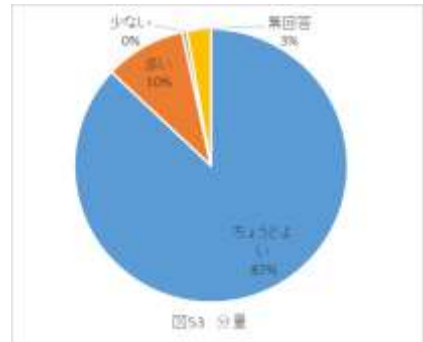
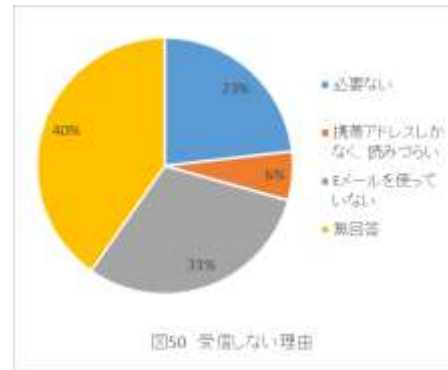
類型別にみると、幼・保のクラブではほとんどが受信していない(図 49)。幼稚園・保育園に対してはメール以外のコミュニケーション方法を考える必要がある。



受信していないクラブにその理由をきいたところ、図 50 のようになった。

- (2) 役に立っているか
- (3) 配信頻度
- (4) 分量

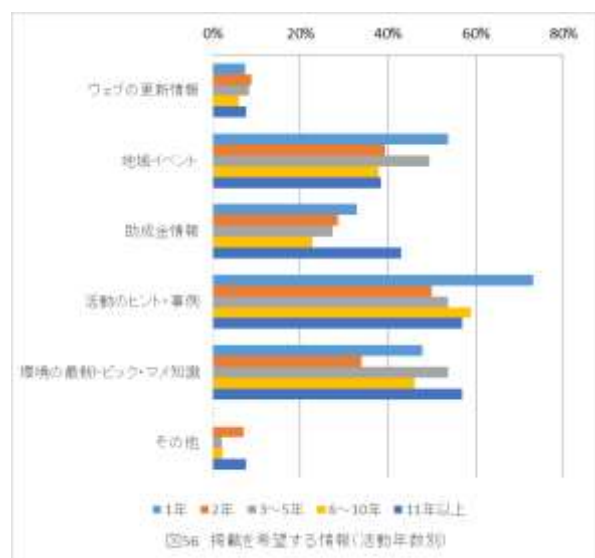
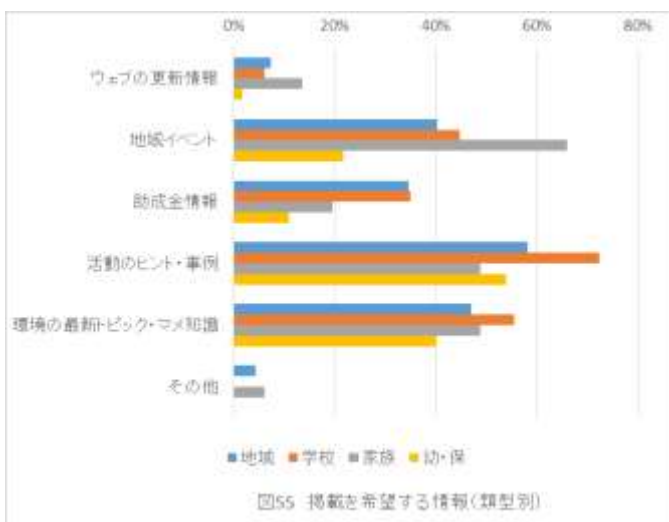
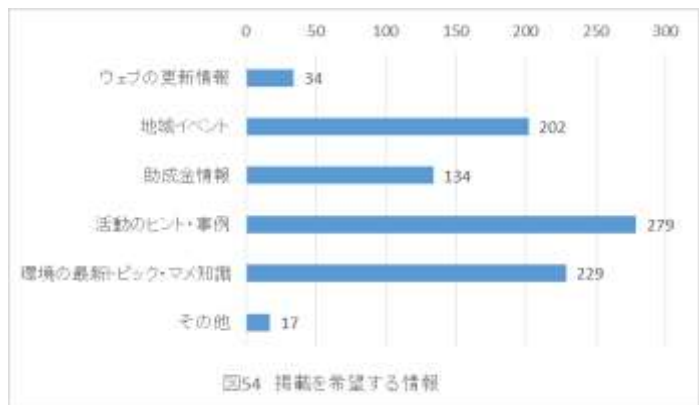
メールインフォメーションは役に立っているか、配信頻度、分量についてきいたところ、いずれも肯定的な回答が多かった(図 51～53)。



(5) 掲載を希望する内容

メールインフォメーションに掲載を希望する内容についてきいたところ、活動のヒントや事例、環境に関する最新ピックに関する情報への要望が多く、現在のメールの中心となっている、ウェブサイトの更新情報へのニーズは低かった(図 54)。

類型別にみると、学校や幼・保のクラブで活動のヒント・事例が、家族のクラブでは地域のイベント情報が高い(図 55)。ま



た、活動年数別(図56)では、年数が浅いクラブで活動のヒント・事例やイベントの情報が求められる一方、長く活動するクラブになると助成金へのニーズが高まっていることが読み取れる。

Q12.メンバー手帳

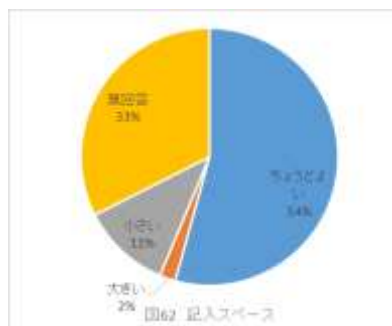
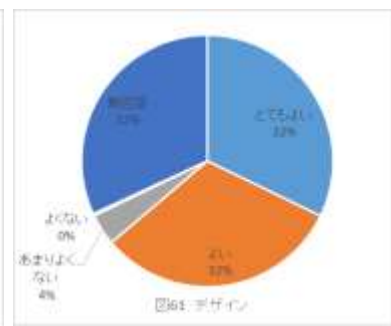
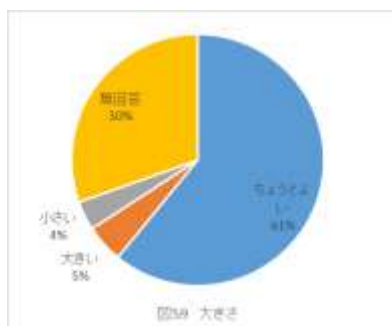
(1) 活用しているか

メンバー手帳を活動の中で使っているかどうかきいたところ、図57のようになった。手帳を送付しているクラブの約4割に使われていない。特に1年目、2年目のクラブで活用されておらず(図58)、年数の浅いクラブを支援するツールにはなり得ていない。



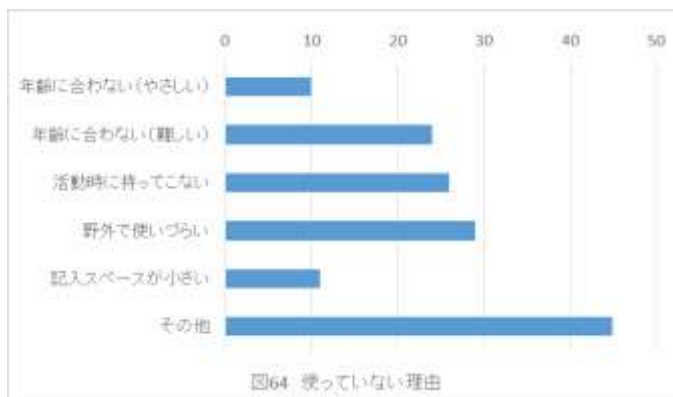
(2) 手帳について

手帳をもらったクラブに、大きさやページ数等についてきいた。概ね肯定的な反応であったが、記入スペースが小さいと考えるクラブがやや目立つ。



(3) 使っていない理由

手帳を使っていないクラブにその理由をきいた結果、図 64 のようになった。「その他」で挙げられた意見を抜粋する。

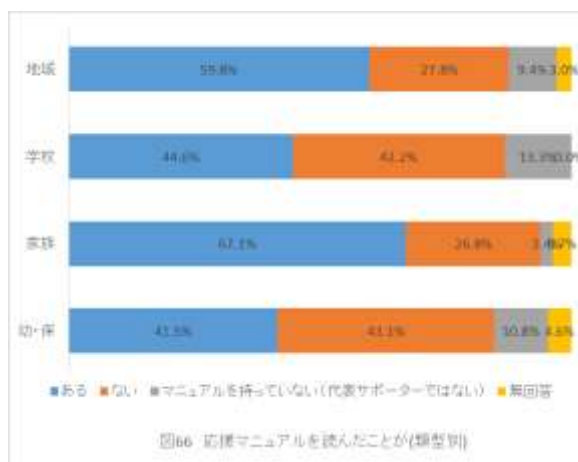
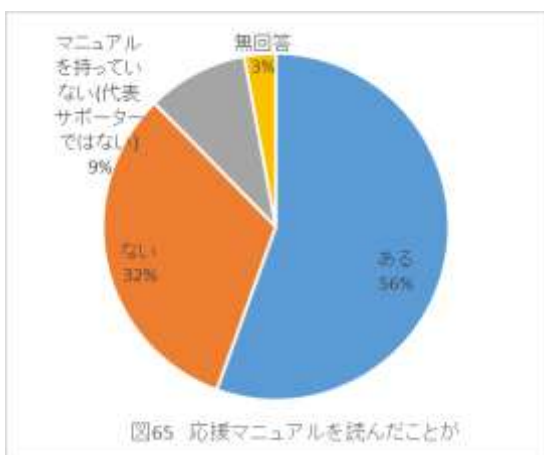


- ・クラブで別の書式を用意している。
- ・自由に書けるノートの方が使いやすい。
- ・届いたのが9月でもう使えない。カレンダーに年度や曜日を入れなくていいか、早く送ってほしい。
- ・野外で使用するので、水に強い表紙・カバーに。幼児では現在の物で良いと思うが、小学生以上の子どもには野外で使用しやすい大きさの物に改善してほしい(ポケット手帳サイズ)。
- ・中学生以上には不要。
- ・月に2回以上の活動をする記入する欄がない。
- ・研究のための調査内容をまとめるものとしては使いにくい。
- ・持ってくるのを忘れてしまうようだ。
- ・男の子はこつこつかきたがらない。
- ・毎回記入することのメリットを感じない。
- ・使用目的がわからない。

Q13.応援マニュアル

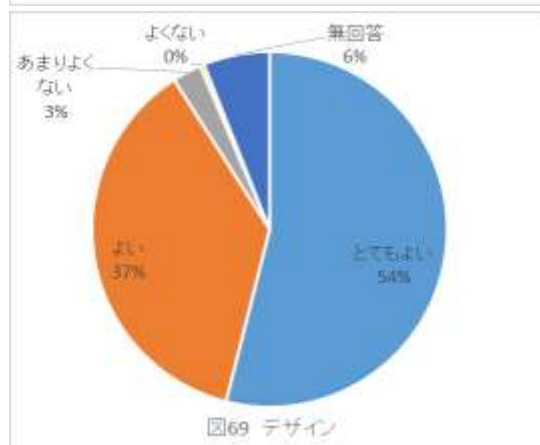
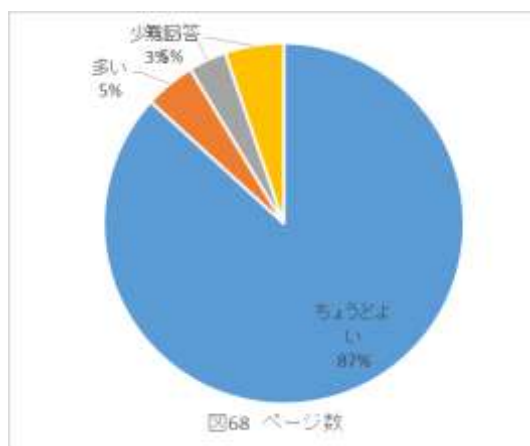
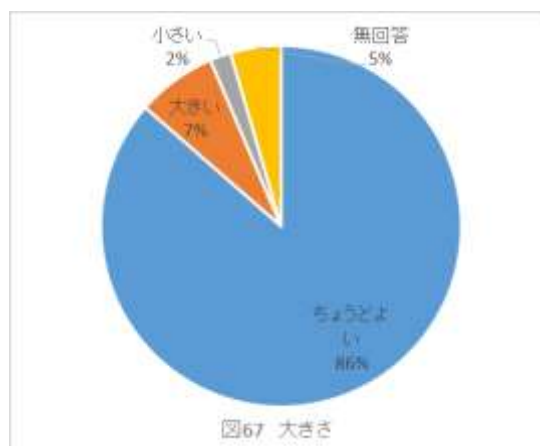
(1) 読んだことがあるか

登録時に送付する応援マニュアルを読んだことがあるか聞いたところ、図 65 のようになった。読んだことがないサポーターが3分の1、特に学校、幼・保でその割合が高く(図 66)、日常の業務に追われている様子がうかがえる。



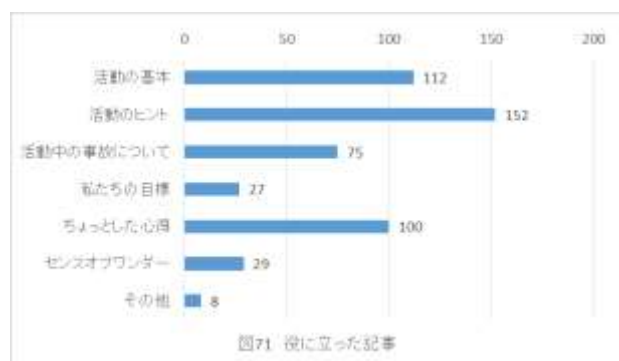
(2) 応援マニュアルについて

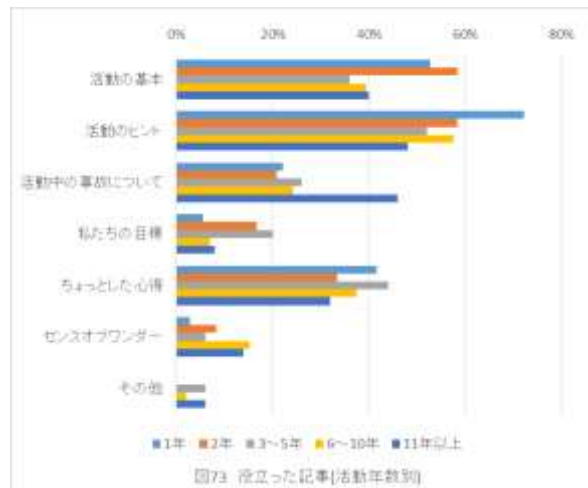
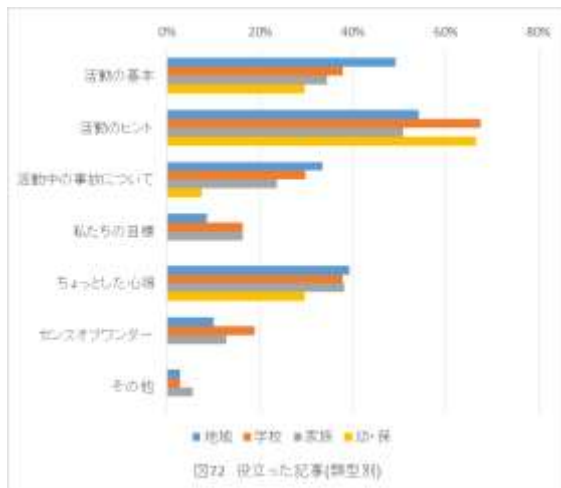
応援マニュアルを読んだことがある人を対象に、大きさやデザイン等についてきいたが、肯定的な回答が多数であった(図 67～70)。



(3) 役に立った記事

マニュアルを読んだ人に、役に立った記事についてきいた(上位 3 つ、図 71)。学校や幼・保のクラブでは活動のヒントが多く挙げられている点(図 72)、年数が長いクラブで活動中の事故や保険が多く挙げられている点(図 73)が特徴的である。





(4) 掲載してほしい内容

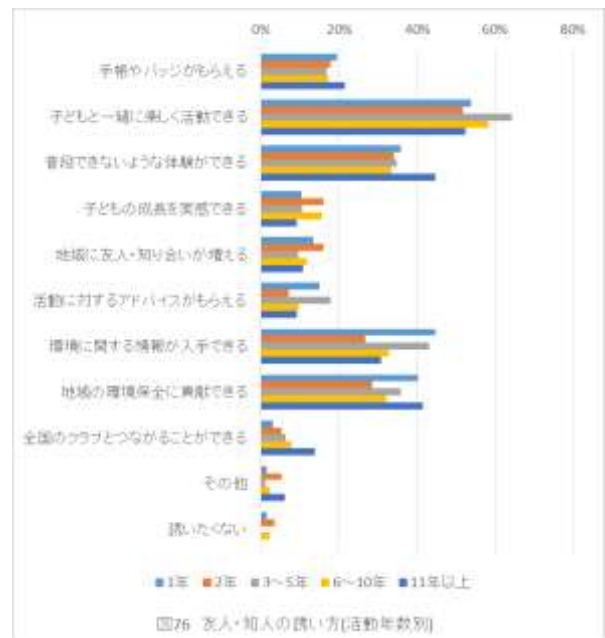
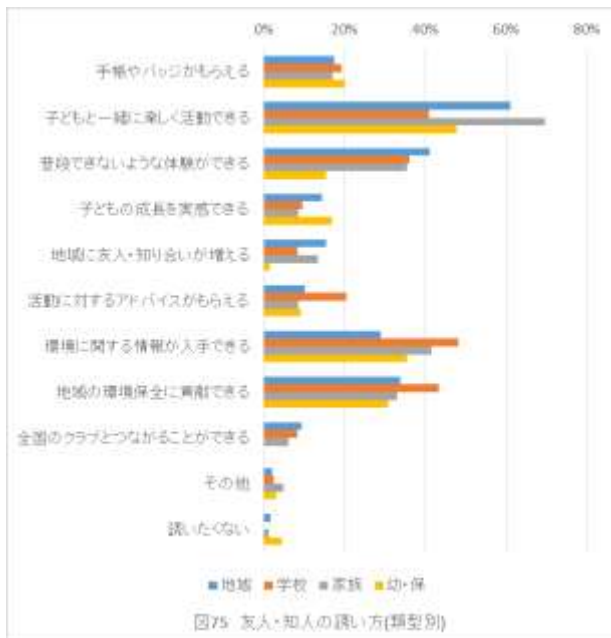
応援マニュアルに掲載してほしい内容について、自由回答で聞いたところ、以下のような意見が得られた。

- ・活動の基本をもう少し詳しく記載していただけると読みやすいと思いました。
- ・活動のヒント、事例をもっと豊富に。
- ・5～6歳でもできる活動の例
- ・今からでもできる、自分で始められる身近な活動のヒント
- ・初心者向けの活動の例
- ・指導者の情報
- ・活動をサポートしてくれる、NPO法人や他企業など
- ・緑のカーテンの苗、種を配布してくれる団体を紹介してほしい。
- ・地域でどのような活動をしているのか・他のクラブがどのような活動をしているか具体的に
- ・壁新聞の作り方
- ・活動報告書の書き方
- ・簡単なワークショップの開き方とネタ集
- ・子どもの叱り方、親御さんへのコミュニケーションの取り方
- ・助成金の情報
- ・地域情報
- ・年間スケジュールで、毎年行っていることがあれば、いつ頃どんなイベントをやっているのかが分かると、問い合わせしやすい。なくなってしまう場合もあるが、新しく始まることなどの、掲載があると、うれしい。
- ・近隣の無料で講座や行事をしてくださる団体の情報がほしいです。
- ・社会教育の中で環境教育の必要性から地域の小中学校の教職員と連携がとれる方法。任意参加で募集してもほとんど協力しない。
- ・活動中の事故のヒヤリハット事例

- ・野外事故、怪我の対応や応急処置など。
- ・生態系や環境変動等の環境に関する情報
- ・原発後の地域別放射線量の統計データなど。原発被害にあわれた方には申し訳なく思いますが、放射線被害がなかなか消えないものである事をみんなが重視し、エコな自然エネルギーの大切さを私たちが身にしみて感じる必要があるとおもいます。この青い美しい地球をいつまでも守る為に。
- ・こどもエコクラブを卒業したメンバーたちの現況に関するレポートや活動当時の思い出レポートが読んでみたい。

Q14.友人・知人の誘い方

友人や知人にクラブに入ってもらい、もしくは新しくクラブを作ってもらったらどのように誘うかをきいた(上位 3 つ、図 74)。地域や家族のクラブでは、子どもといっしょに楽しく活動できることが、学校では環境に関する情報やアドバイスがアピールポイントになっている(図 75)。また 11 年以上活動しているクラブでは、普段できない体験ができたり、他のクラブと交流したり、という非日常的な部分を志向する傾向がある。



[その他の回答(抜粋)]

- ・受賞した時の賞品が魅力的。
- ・うまいくと東京に行ける。
- ・クラブの活動を全国に知らせることができる。

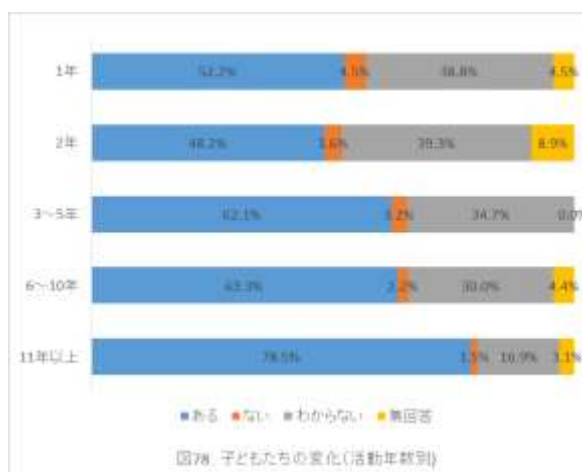
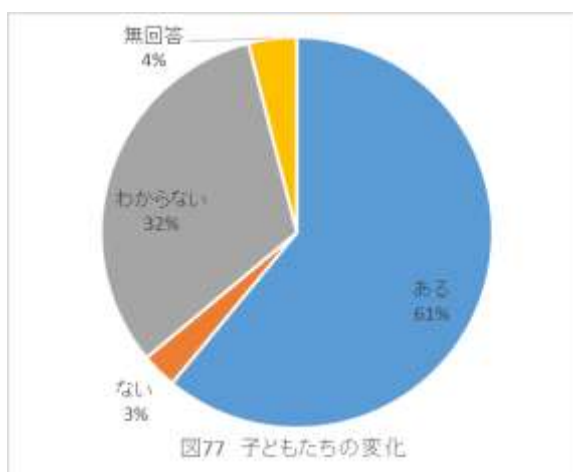
- ・地球に大切なことを、子供に遊びの延長で教えられて、子供の知識を広げられる。
- ・無料で保険にも入れる。

「誘いたくない」と回答した方にその理由をきいたところ、以下の意見が出された。

- ・自分達も加入しているが主だった活動をしておらず、例年の流れで継続しているにすぎないから。
- ・入っていても何の情報も必要性も感じられないので。
- ・自分が積極的に活動していないのに誘えません。
- ・保護者も同伴しなければならないため。
- ・活動時の事故、けが等が心配。
- ・保育園児なので、参加が難しい。
- ・活動時間をとるのがむずかしいため。

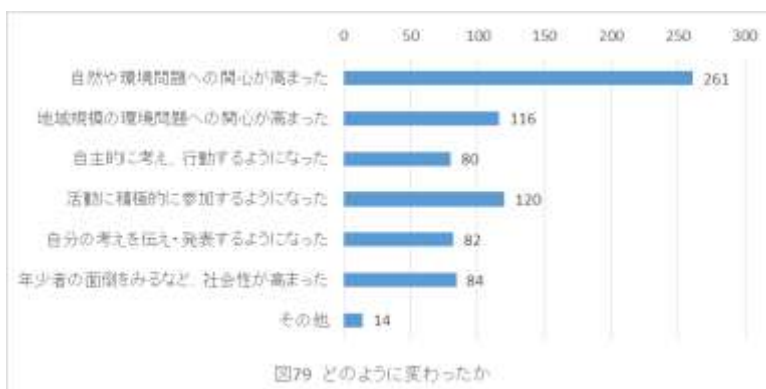
Q15.子どもたちの変化

こどもエコクラブで活動したことで、子どもたちに変化があったかたずねたところ、6割が「ある」と回答した(図77)。やはり、活動年数が長くなるほど「ある」と答えるクラブの割合が高くなる(図78)。



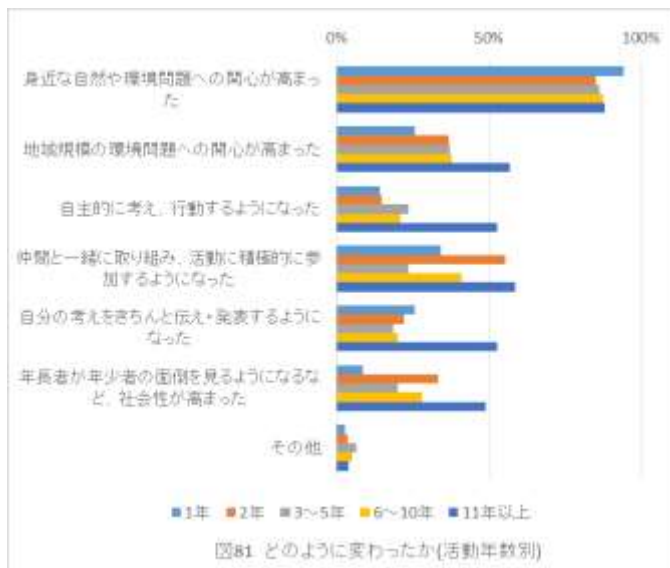
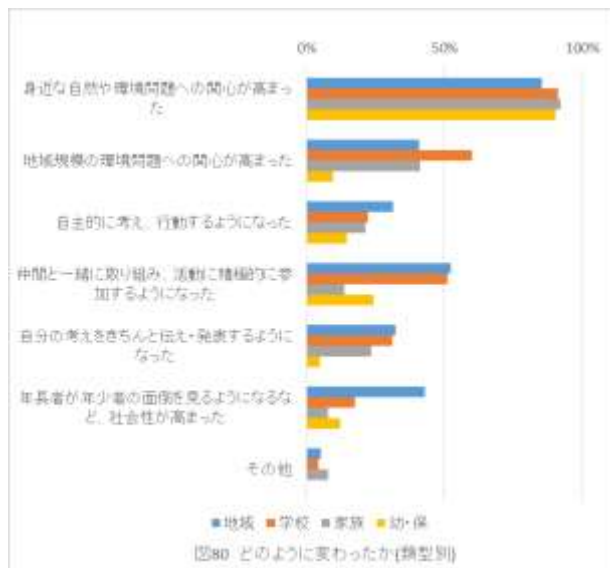
Q16.どのように変わったか

Q15で「ある」と回答したクラブに、どのように変わったかきいた(図79)。「身近な自然や環境問題への関心が高まった」という意見が最も多かったが、「仲間と一緒に取り組み、活動に積極的に参加するよう



になった」など、子どもの成長に関する回答も多い。

類型別にみると、学校のクラブで環境問題への関心の高まりが多く、地域のクラブで子どもの成長を挙げるところが多い(図 80)。活動年数別では、11年以上のクラブで子どもの成長を実感するサポーターが多い(図 81)。



[その他の回答(抜粋)]

- ・小さなことですが、水や電気のムダづかいの事は理解して節約に協力してくれるようになった。
- ・生活の中でのエコを実践するようになった。
- ・理科が好きになった。
- ・いろいろなことに興味を持つようになった。
- ・かべ新聞作製はとても楽しんでいる。
- ・活動外でも、学校でクラスや学年、学校をまとめるリーダー的存在になる。
- ・自分より目線の低いものへの配慮ができた。年配を敬う気持ちができる。
- ・地域の方に褒められることで自信を深めた。
- ・学校へ行かれるようになった。

Q17.あったらいいサービス・特典

こどもエコクラブに会ったらいいと思うサービスや特典についてきいたところ、以下のような意見が出た(抜粋)。

助成金やグッズ、施設の割引等金銭的な支援を求める声のほか、特に地方での体験・交流イベントやサポーター研修会の開催、環境に関する専門知識や子どもとの接し方・指導に関するノウハウを求める意見も多かった。

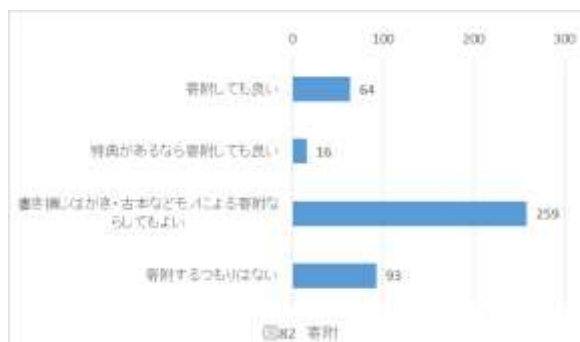
限られた財源ではあるが、中にはお金をかけないで実現可能な事項もある。智恵を出しながらクラブからの要望に応えていきたい。

- ・同じ地域でしている人がいたら、交流したい。
- ・交流会、サポーター研修会
- ・地方でのイベント
- ・専門家や有名人の派遣
- ・地域の専門家に尋ねることができる(年に〇回はこどもエコクラブの特典で可能とか)
- ・ユースメンバーの派遣(活動応援隊…的な)
- ・地域の専門家や講師の紹介(子どもの疑問を専門家に質問できる仕組みづくり)などサポートをお願いできると助かります。
- ・イベント開催時の、ノウハウ(気を付ける事、必要な物や在ると便利な物。準備や当日の手順)
- ・生きものの写真を全国事務局経由で、専門家に聞いて頂く仕組みなど。
- ・環境用語集(子どもに説明できる)、子どもたちがあきたり集中力が切れそうな時に効果のあるゲームやクイズ、紙芝居などの紹介、新メンバーが入ってきたときやクリスマス会、卒業会などでエコにからめたイベントの計画の仕方
- ・地域(都道府県)ごとに子どもによる環境を考える会議みたいなもの(年1回か年2回同じメンバー)。大人たちと同じように子どもの目線、立場で意見を出せる場
- ・日本の伝統工芸品や文化に触れる事ができるイベントを増やしてみても？子ども達がそれを知ることで、継承でき、自然を守ることへの大切さも何かの形で知る事ができるのではないかな。
- ・エコ活動がどういうものか1年生でもよく理解できるようなDVDが欲しい。
- ・保育園児の様な小さな子ども達にできることの指導があるとありがたいです。
- ・活動の企画提案・地元の指導者紹介&仲介など。
- ・活動に役立つおすすめの本・キット・動画・テレビ・映画などの紹介。
- ・マイ箸作成キットやティッシュケース作成キット、カッターや梁を使わないソーラーライトなど、エコ作成グッズの配布があると嬉しい。
- ・文房具の提供
- ・川清掃などの際に、ごみ袋がもらえる、など。
- ・活動に利用できる用品の貸し出し(水質調査、ソーラークッカーなど)
- ・エコに役立つグッズの紹介
- ・リーダーに腕章
- ・地域情報とは別に世界の環境への取り組みについて学べる資料があると良いと思う。
- ・環境やエコ、自然等について(ひとつのテーマで)ポスターが定期的に送られてくるとよいと思う。低学年にもわかりやすい内容で、ポスター式に掲示板に貼れるような物がよいです。
- ・環境保全に関わる身近な施設や企業などの見学ができたり支援を受けられたりする。
- ・以前のように2泊3日で全国フェスティバルの費用を全額負担してもらえる特典
- ・活動したら図書券や商品券などがもらえるといいと思います。
- ・1年間がんばってアース認定証を貰ったメンバーは、地域にあるこども館や博物館、動物園などの利用料が減免されるなどの特典になる。
- ・施設利用等の会員割引の特典

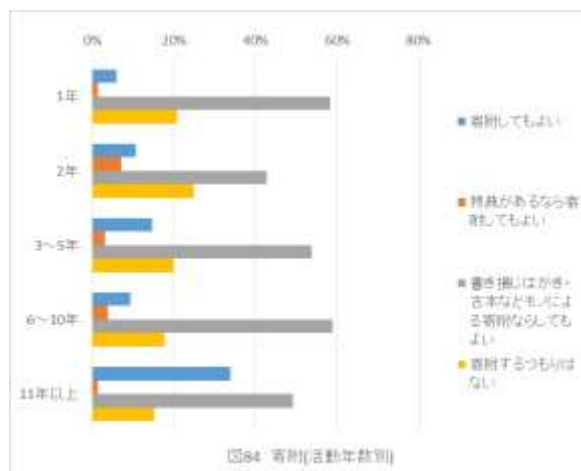
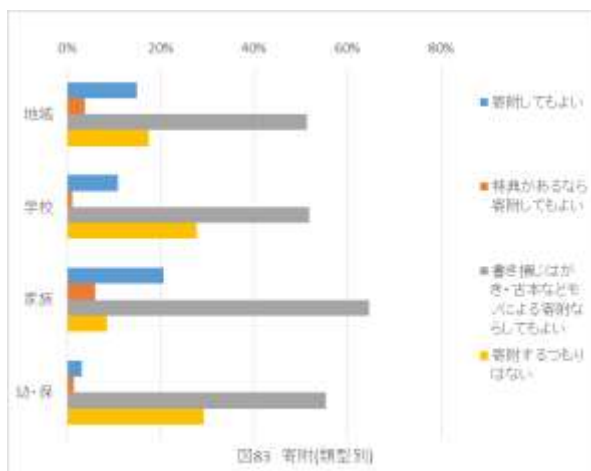
- ・都内(東京駅周辺)での活動は便利ですが、田舎にあるチームは参加をしづってしまいます。交通費の援助は大いに助かります。実際に作って遊ぶことのできるもの、完成して環境に生かせること。
- ・だいぶ前はバンダナの配布がありました。とても役立ちました。子ども達が使えものがあれば入会ややる気にもつながる。他県の博物館や水族館の入館料の割引。
- ・スポンサー企業が制作したエコグッズの無償配布情報
- ・地域での環境・エコに関する活動・行事に参加したら、スタンプ・シールなどしたりすることができる簡単なカード(手帳)などがあるとどんな方でも参加しやすく、楽しめるのでは。
- ・受賞したクラブに記念品やご招待ではなく図書カードや賞金を与える。初期の活動資金(助成金)はとても良いアイデアだったのに残念です。
- ・こども向け体験講座(講師の派遣、体験プログラムを園で行うサービス)
- ・中学生になっても参加するイベント(夏休みなど)
- ・携帯でもエコクラブのホームページを見たり、記入できるとパソコンがないのでうれしいです。
- ・交流したいクラブに HP の活動レポなどから、メッセージを直接送れるとよいと思う。
- ・身近なことへの提案や提案活動内容など簡単に投稿できるシステムがあるといいと思います。
- ・チアーズの手紙が活動の1か月前のお知らせなので、活動が早くわかると参加しやすいです。
- ・いつも同じ活動になってしまい、年度ごとにテーマをほしいと思っています。
- ・今のままだでも十分。応募数が違うのだと思うけれど、〇〇県では絵日記や壁新聞が表彰されていて少しうらやましい。
- ・団体や個人への登録証の発送、エコクラブに登録して活動している団体への価値付け。
- ・登録している団体には、県市町村から活動支援をいただきたいです。
- ・責任賠償保険だけでなく、傷害保険も付けて欲しい。
- ・負担なしでの傷害保険、中規模での交流会、サポーター対象での研修会、アースレンジャーの単年度での階層化?(5つのスタンプをはるかに上回るメンバーもいる。)
- ・バッジの(アースレンジャー含め)質を高め身につけている事が喜び・誇りとなるようなものにして欲しい。アースレンジャー認定証は、各学校から子供に手渡しする形でお願いしておりますが、もう少し教育委員会などが推奨するような広報活動を行って欲しい。村担当窓口でも「こどもエコクラブ」申請時に誰も知らず「一応お預かりします」という対応であった。教育委員会から学校を通じて地域で活動しているエコクラブを紹介して、アースレンジャーなどの取り組みに参加をする呼びかけをすべきと考えます。地球環境の大切さを理解させるには小学生から参加する機会を創ることが大切と考えます。

Q18.寄附について

こどもエコクラブ事業に対する寄附についてきいたところ、多くのクラブが「モノによる寄附ならしてもよい」と回答した(図 82)。類型別にみても、4 類型全てで半数以上のクラブ



が「モノによる寄附ならしてもよい」と答えている(図 83)。ちょうど古本募金を開始したところであり、クラブに対して積極的に働きかけていく必要がある。また、11年以上活動しているクラブでは、3分の1が通常の寄附をしてもよいと回答している(図 84)。

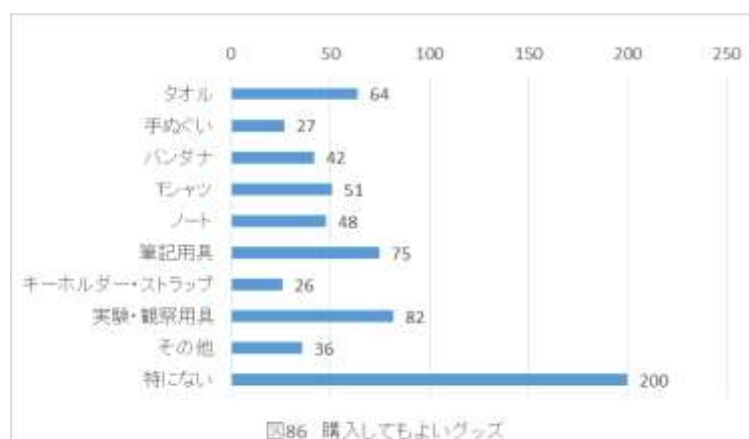


「寄附してもよい」と回答したクラブに対し、寄附してもよい金額(一年あたり)についてきたところ、図 85 のようになった。3,000 円までと考えているクラブが多いが、10,000 円以上寄附してもよいと答えたクラブもあった。



Q19.オリジナルグッズについて

あれば購入してもよいと考えることもエコクラブのオリジナルグッズについてきた(図 86)。「特になし」という答えが一番多かったものの、実験・観察用具、筆記用具、タオル等、子どもたちが活動の際によく使うものが比較的多く挙げられた。その観点からか、手ぬぐいを挙げたクラブは少なかった。



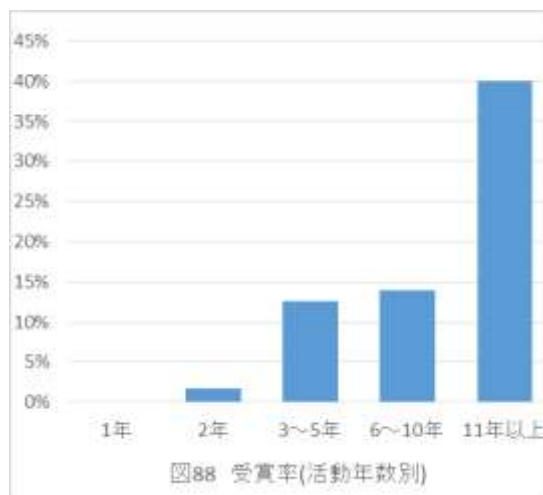
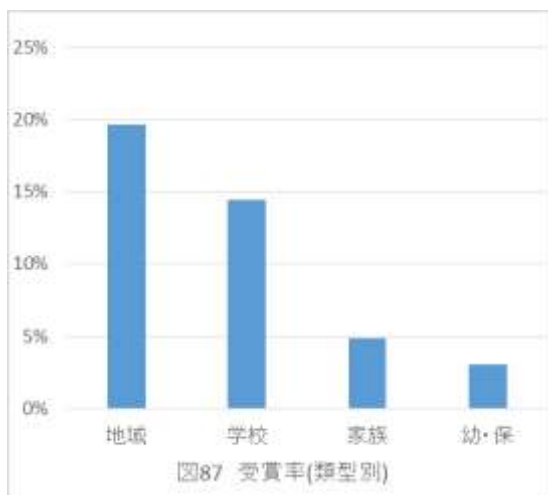
[その他の回答(抜粋)]

- ・エコバッグ ・帽子 ・腕章 ・エプロン ・子どもが使いやすい捕虫網
- ・ステッカー(大きめ、反射素材ならなおよい) ・旗かのぼり ・携帯用虫よけスプレー
- ・クリアファイル ・スタンプ・お箸・スプーン・フォーク ・クラブ名入り T シャツ

- ・いらない服の端切れを使ったぬいぐるみ
- ・小さな温度計
- ・下敷き
- ・バインダー
- ・クラブの活動を紹介したDVD
- ・ラインスタンプ
- ・ストラップ付ペン
- ・布製バッジ

Q20.こどもエコクラブ活動による受賞歴

こどもエコクラブの活動により行政・企業等から賞を受けたことがあるかたずねたところ、回答のあった477クラブ中64クラブが、何らかの賞を受けたことがあった。類型別・活動年数別に受賞したクラブの割合を出したところ、地域・学校のクラブ、11年以上活動しているクラブで高かった(図87、88)。



[回答のあった賞名の例(()は主催者名)]

- ・環境保全功労賞(環境省)
- ・日本水大賞 文部科学大臣賞(環境省)
- ・ESD フォトコミュニケーションプロジェクト(環境省)
- ・「我が家の環境大臣」エコファミリー特別賞(環境省)
- ・淡海こどもエコクラブ大賞(滋賀県)
- ・みえ環境活動賞(三重県)
- ・岩手県アドプト活動モデル賞(岩手県)
- ・千葉県環境衛生大会表彰(千葉県)
- ・埼玉環境大賞(埼玉県)
- ・エコ保育所・幼稚園(石川県)
- ・環境保全活動功労者表彰(北海道)
- ・環境紙芝居小学生の部 最優秀賞(茨城県)
- ・まちかどいきものマップコンテスト団体の部最優秀賞(京都市)
- ・KOBÉ 生き物マップ外来生物探し、最多投稿表彰(神戸市)
- ・エコクラブコンテスト銅賞(静岡県沼津市)
- ・ふくやま環境賞(広島県福山市)
- ・「みどりの小道」環境日記コンテスト(グリーンクロスジャパン)

- ・イオンチアーズクラブ活動発表会 優秀賞(イオンリテール株式会社)
- ・トムソーヤースクール企画コンテスト(安藤食文化・スポーツ振興財団)
- ・ふるさと貢献賞(静岡新聞・静岡放送文化福祉事業団)
- ・コカ・コーラ環境教育賞(コカ・コーラ環境教育財団)
- ・こどもエコグランプリ(日本海テレビ)
- ・全国かんきょう絵画コンクール ビルメンテナンス賞(ビルメンテナンス協会)
- ・元総社の子どもを明るく育てる会表彰(地域の自治会)
- ・生物多様性アクション大賞(生物多様性アクション大賞実行委員会)
- ・全国学校ビオトップコンクール 環境大臣賞(日本生態系協会)
- ・あきたエコかるた(あきたエコ&リサイクルフェスティバル実行委員会)
- ・こどもエコクラブ全国一斉活動 東芝賞(こどもエコクラブ)

Q21.こどもエコクラブに関する意見・要望

こどもエコクラブに関する意見や要望を自由記述形式で書いたところ、以下のような意見が出た。

・私には子どもが3人います。子ども会に属して8年程度になるので、エコクラブにも同年数属していることになると思います。春にいただくグッズが子供たちに魅力がなく「いらない」という子どもも多く困りました。(持ち帰ってもらいましたが)子どもの気を引く物を用意して、そこから興味関心へとつなげていく方法もあるのかなあと思いました。本来物につられず参加できるのが望ましいことは十分理解しておりますが、家に持ち帰り処分されてしまうグッズならかえってエコではないなとも思っています。

・私たちの地域ではエコクラブに関心がありません。子ども会の役員になったので加入しただけです。ですからエコクラブ必要ないと思います。本当に活動している方達だけにして、予算をそちらに使った方がいいと思います。ペンやバッジを頂いてもその後大切にされているとは思えませんので正直無駄だと思います。このアンケートにも経費がかかっていると思うと勿体ないと思います。もっと有意義なことにお金は使って欲しいです。厳しくて申し訳ございません。よろしくお願い致します。

・実質どれくらいのチームが活動しているのか疑問。

・エコバッジは無駄になる気がします。

・イベントで、すすめられて入会した感じです。子どもも低学年であまりまだ興味がないようです。私自身もこの活動自体なんなのか、どのように行うのかなど詳細を理解していないので、会員でも今は意味がないです。子どもの成長と自分の時間を見つけて少しずつ活動できたらと思います。

・毎年生徒が進級し、連続して継続会員として運営できない悩みがある。毎年2~3人は残るが、続いてクラブとして積極的な参加が少ない。学校の勉強、父兄の考え方、子ども達をサポートに一任することへの不安(事故や安全等)。サポーター以外の行政が強力にサポートしている実感を正直受け取れない。民間の環境関係者の子育て支援の様にとらえている方もおります。学校の後押しがないと、その必要性を認識してもらうのが困難と思う。

- ・行政からの助成金が少ないため維持が困難である。
- ・イオンチアーズクラブの発表会を見に来て下さい。チアーズクラブの予算が少なくなり困っているので助成して下さい。
- ・活動に必要な資金の調達方法が知りたい。活動に必要なものや告知チラシ等をサポーターが出している現状では、これ以上の活動は厳しい。
- ・これからどうしていったら良いのか悩んでいます。通信費・講師との打ち合わせなどにも金額がかかり活動するたび赤字になってしまっています。
- ・本来の趣旨とは違って来たように思える。登録団体から寄付を集めるなど言語道断！支援をする立場、支援をされる立場を混同しないでほしい。
- ・運営資金のための寄付について一言、個人的な意見を申し上げます。実際に体を動かしているメンバー、サポーターに求めることと、動けないけれど寄付という形なら応援できるという企業や個人にメッセージを送ること、比べると私は後者がより重要だと思います。良くも悪くもふるさと納税はその一例です。内部だけで懸命にやっても広がりは期待できませんいつかは衰退します。これだけの全国規模の組織なのですから、各方面、メディアなどにも強く働きかけて、こどもエコクラブに興味を持つ＝環境のことを考える方を一人でも増やしてほしいと願います。
- ・一時の活気が感じられず残念です。登録数が増加の方向に転じていけばいいなと感じています。全国フェスで交流会等に参加し、多くの事を感じる事ができました。今後も全国フェスは大切にしてほしいと思います。全国フェスが各県をまわっていた時はいろんな特徴があり、その都市への独自性を感じ、勉強になりました。参加に伴う費用も全額負担していただける様よろしく願いいたします。
- ・国が環境に関する関心を失ってきているから環境活動関係への補助が少なくなっているのでしょうか？エコクラブの活動も以前よりは資金を削られていると感じます。国はもっと環境活動に税金を使うべきではないのでしょうか。子どものうちに環境に関する関心を高めておかなければ、今の大人のように、自分の利益優先で、未来の環境に関心を持つ大人を育てることは難しいのではないのでしょうか。学校教育の中にずいぶん環境教育が取り入れられるようになりましたが、個々の先生方の資質による差が大きいと思います。環境に関する学習に専門の指導者を育てて、学校教育に入り込んで、エコクラブの活動をもっと学校で行えるようになるといいのではないのでしょうか…。
- ・私たちは山奥で活動しています。こどもたちの交流会や研修などに参加したくても、旅費の負担が大きすぎます。こどもたちへのチャンスが、都会と比べ、私たちのように圧倒的に少ない地域はほかにもあるはずですが。開催地の検討や企業による金銭的サポート、助成金などの効果的な利用など、こどもたちへのチャンスをできるだけ公平に、ということ、ぜひ考えていただきたいと思っています。
- ・全国フェスティバルの選抜クラブ発表を、もう少しスピーディーにお願いできますと助かります。また、ちょうど年度替わりの時期で、転校・転勤・引っ越しなどと重なります。選抜されなかったクラブにも「順次」連絡があると非常に助かります。お忙しいと思いますが、対応をご検討頂きたいと思っています。

- ・スポーツクラブに入ってしまった、高学年になると参加が難しくなってしまった。
- ・入ってみたものの、いざ活動しようと思うとエコ活動は生活の中で自然とやっているが、報告を上げられる様に前もって段取りしてレポートするのが面倒だからなかなかできない。今年夏もダンボールコンポスト・みどりのカーテン等しているが、報告できるようにまとめられるのがおっくう…。
- ・壁新聞の締め切りがはやすぎる。年内にはできないので年明け2月末くらいの締め切りにしてほしい。
- ・配布されている「メンバー手帳」や「応援マニュアル」は毎年配布を止めて通年使用できるような内容にした方が経費節減になると思います。(但し継続会員に適用)
- ・子ども達が大変忙しい時代になり、保護者の方も仕事などで活動のスケジュールが立てにくくなりました。例えば、全国の様々な活動をしている団体が、こどもエコクラブからの花の種をまき、同じものを育て、活動を(仲間を)共有し、こどもエコクラブの輪が広がるといいかな…と思います。
- ・幼年期からの意識付けの意味も込めて参加しています。活動の中心が小学生向けなので、幼児用と小学生用のメンバー手帳を分けて、年齢に合ったものになれば使う可能性は大きくなります。追伸。普段の活動がエコクラブの活動となっているため、このアンケート(月何日)とか(1回の活動で何人参加)という質問には答えづらかったので、予想で書きました。「活動ありき」ではなく、「生活に根付く活動」のため、報告は難しいです。
- ・先代(立ち上げ人)より引き継いで2年目、自分が今では参加するだけでいたので気は楽でした。しかし代表となつては運営をどのようにしたら良いのか先代の意向通り無料でなおかつ、〇〇山や〇〇川を利用しての活動となるとどうしたら良いのか？4月に行う活動は参加者があるが、年度途中は全く参加者がなく、頭が痛い所。活動の報告となる壁新聞の提出。クラブだけを考えていられるわけでもなく、「どうしたらよいのか」と1人悩んでおります。手帳やホームページの活用も考えなければ…。ホントに相談したくても何からしたらいいのか…。要望といってもなにをしてよいのか…。
- ・あまり活動が出来ずに残念なのですが、子ども達、保護者、職員少しでも環境に対する意識が持てればよいと思っています。微力ですが何かの役に立てればと思います。
- ・周りにこの活動やビオトープの観察会などの催しを知っている人が少ないです。なぜなんでしょう？ボランティア活動？というイメージがあつてあまり積極的に興味を持たれていないのでは？理料的な部分ももっとアピールすれば集まる様に思います。理科の習い事ってなかなかないですし。よく参加する私としては下手な習い事よりずっとためになっていると思っています。
- ・以前、大阪府で行っていた事業で「大阪湾クルージング」の復活を願います。成人したクラブ員が今でも話題にするくらい、印象深い事業でした。
- ・地域での一斉の活動やキャンペーンなどたくさん企画してください。
- ・子どもたちは活動することは楽しくて苦ではないようだが、メンバー手帳などに記入記録することは苦手であるようで、記録できていないのが残念です。継続登録する際人数分のバッジを希望しなかったのが後になって子ども達が欲しいと言ってきました。まだいただけるのなら人数分バッジを頂けるとありがたいです。・エコクラブを通じて環境問題、外来生物などについても子ども達も考えるようになってきたので嬉しいです。

・エコクラブの本部と地域のエコクラブ(市町村?)の情報共有がなされていないので、本部へ直接連絡すると、市町村には還元されない(今年は継続手続きを本部でしましたが、地域のエコクラブからは何も送られてはこない。)。以前、住所の変更を地域に提出したら、本部からの郵便物はいつまでも旧住所に送付されていた。

・郵送で直接案内をいただけたらうれしいと思います。参加したいと思うのですが、仕事にあまりホームページが見られないですし、申し訳ないですが、サイトを見ても参加できるイベントがよくわからなかったです。

・イベントに応募するのですが、当選があまりないので、イベントを増やしていただけたらうれしいです。

・かべ新聞ぐらいよいか、悪いか採点してほしい。10年以上出しているが、よそにない〇〇エコクラブで自分たちで考えてやっているのに、何の返事もないさびしいです。指導者としても〇〇新聞に大きく載ったり、〇〇年〇月〇〇日にテレビのニュースにでました。リサイクル紙工作オリジナル工作です。以前にも環境協会に連絡していますが、何の返事などない。

・環境アドバイザーのコメントは、いつも「ほめる」でいいのではと思うことがあります。報告できる内容は字数も足りず不十分な内容になりがちのため、たまにアドバイスに勘違いや的外れになっているものがあつたりすることが唯一気になります。

・活動を始めてから毎年壁新聞を製作してチャレンジしていますが、残念ながら代表に選ばれず、子どもたちと毎年落胆しています。正直、他市ほど豊かな自然あふれるところではないので、〇〇市という土地柄、環境活動をして専門家の先生たちには選ばれず、代表にはこの先なれないのでは?と思うようになりました。今年の壁新聞の製作は辞めたほうがいいのでは?と、悩んでいます。

・スタンプ等は、モチベーションのアップに効果的だか、早いうちに5個溜まってしまうと、そこから先の動機づけが弱くなる。年1回のアースレンジャーだけでなく、常に何かの目標を持ちやすい仕組みがあると良いと思います。

・たくさんの情報提供があり、統一感がない感じです。情報を選択できないと大変なことになります。

・アンケートを通してウェブサイトの有効活用を知りました。今後ともお世話になります。よろしくお願ひ致します。

・今日をきっかけに、サイト活用やインフォメール(頂きたいです!)の活用をして、チアーズクラブメンバーにもっともっと楽しんでもらえるクラブにしていきたいです!

・「活動報告」の先生のコメントですが、今年になって報告後すぐに書きこんで頂くようになり感謝しています。頂くコメントも非常に的確で、子どもたちも、楽しみにしています。また、素早くレスポンスいただくことで、子ども達の学習効果が高まり、次のモチベーションにつながっていると感じます。

・全国フェスティバル出場のクラブを発表する際、選抜された壁新聞の選抜理由・すぐれていた点を、公表していただきたいと思います。次回の参考になりますし、子どもたちにも説明したいと思いますので。

・活動発表会をメディアへ発信してほしい。

・去年は全国フェスティバルに行かせていただき、有意義な1日をありがとうございました。発表会

もとても良かったですが、少し外での活動もあればもっと良かったです。

・「入会したら必ずこれはしないとイケない！」というのがないのがとてもいいと思います。子どもの成長、家族のライフスタイルの変化、そういったものを受け入れながら、活動を続けていきたいので、これからも自然や環境に少しでも興味をもっている、何か少しでも自分からアクションをおこしたい！と思っている私たちのようなゆるやかなグループをこれからもあたたかく見守っていただきたいと思っています。

・イオンチアーズクラブでは、毎年、活動のテーマを決めています。エコクラブでもテーマがあると年間の活動が決めやすいかもしれません。サポーター研修があるとありがたいです。グッズは毎年メンバーも楽しみにしていて帽子に付けている子どもが多いです。たくさんつけているメンバーにあこがれて毎年参加しているメンバーもいます。励みになっていると感じています。いつもありがとうございます。

・毎年楽しく参加しています。毎回同じ内容の事を繰り返し参加することにより、学年が上がるにつれ意識の深まる子どもの成長を見ることができます。環境を教えてください先生方が個別に、来てくださり、お話を別に聞くチャンスもあり、地域の方々の力に子ども達はうれしく思っています。今後も続けてゆきたいと思しますので、よろしく願いいたします。

・子どもが大きくなり、家族全員一緒に活動するという機会は減ってきていますが、心の中にエコクラブの活動をしたことで気づいたことなど残ってくれればいいなあと思います。

・〇〇県の環境賞に過去3回入賞した際にこどもエコクラブ登録が寄与していることが考えられる。自分の子どもも勤務校の子どもも登録や交流活動でいろいろな体験や人との関わりを持た。自分自身もこどもエコクラブと共に環境教育の人生を歩んできたと考えているので、誇りに思っている。

・各方面の方々のご厚意をいただきながら活動をしています。行政から依頼されて実験的に始めたのですが、8年を超えたころからライフワークの位置づけとなりました。エコクラブに限らず、このような活動を引き継いでくれる人を育てているつもりです。子供たちは中学になると年1回くるのがやっとで、とても忙しいです。そのためエコクラブから離れる子が多く、残念な思いをしています。高校で戻ってくる子はいませんが、手伝いを頼めば参加します。地元の大学に入ってくればリーダーとして戻ってくると考えています。

・〇〇エコクラブ宛にメールを頂くので親近感が持てる。最初の挨拶文も毎回楽しみ。忙しくてなかなか活動できないがメールを見るともう少し頑張ろうって思う。これからも情報発信して欲しい。壁新聞を頑張って全国大会に行きたい。

・こどもエコクラブという名前ですが、サポーターの大人達も環境問題に対して勉強することができました。

・他の方(団体)活動など参考になり良いと思う。

・寄附は振り込みになると面倒に思ってしまう、なかなか行かない。イベント事で集金してもらえると良い。いつもありがとうございます。自分達は小さな活動しかできていませんが、その1つでも少しでも、この地球を守っていくきっかけになっていると信じ、活動させていただいております。ありがとうございます。

- ・登録料(無料はうれしいが)として 1 団体 1,000 円くらいとってもよいのではないのでしょうか？書き損じや古本は寄附してもよいが送料は負担して欲しい。子どもは世界の財産だと思っています。人だけでなく、全ての命の営みを見守るためにエコクラブ活動は大切だと思っています。仕分けで現在の状況になって、何かとご苦労もおありだと思います。自ら活動していく、いきていくことの様々なことで活動していただきますよう、お願い申し上げます。
- ・設立当初から関わっていますが、なくなることなく続いていることに感謝しています。子どもたちも親たちも忙しい昨今、こどもエコクラブはそれぞれのクラブのペースで環境問題を考えていける場所であり、サポートをしてくれる場所であり、たいへん助かっています。これからの不安な地球環境を、支えてくれる人材育成の場として頼りにしています。
- ・長年にわたり活動してきた子どもたちも成人した人もおり毎日の生活に。仕事の上でもその経験を生かしていると思う。ぜひともエコクラブの活動を展開して欲しいです。
- ・自治体又は地域事務局の職員によっては活動に対する支援に差があり、ガッカリすることが多い。国はじめお役所の熱意は感じられない。それに比して全国事務局の担当者の熱のこもった支援には感謝している。
- ・事務局のサポートスタッフに感謝しています。

以 上